

No. 07

アルゼンティン国立漁業学校 巡回指導調査団報告書

1988. 1

国際協力事業団

林水産

J R

87 - 35

LIBRARY

アルゼンティン国立漁業学校

巡回指導調査団報告書

1988. 1

国際協力事業団



序 文

アルゼンティン共和国は、豊富な漁業資源を有する同国南部パタゴニア海域における漁業振興をパタゴニア地域開発の中核として位置付けており、この計画の実施に必要な近代的技術を身につけた漁業技術者等を育成するため、本件に対する技術協力を我が国に要請してきた。

この要請に基づき当事業団は昭和56年4月、アルゼンティン共和国の要請内容の確認、現地視察、情報収集のために事前調査団を派遣した。

その後マルビナス紛争により、我が国からの協力は一時期中断されたが、同紛争の終息を機に、昭和58年3月実施協議調査団を派遣して本プロジェクトにかかるマスタープランにつき協議し、アルゼンティン共和国側と大筋の合意に達した。なお、討議議事録(R/D)については昭和58年12月に締結された。

昭和61年10月巡回指導調査団を派遣し、それまでの3年間の協力の評価を行い、また続けてさらに2年間協力を行うこととなった。ただし当初から協力の3分野の一つであった漁獲物処理の分野に関しては、基本的に技術移転は完了したものと評価され、残る2年間の協力対象分野から削除された。

本調査は協力4年目のプロジェクトの進捗状況の把握と、プロジェクト終了までの協力計画の見直しにかかる検討を行うことを目的として実施された。

終りに、本調査団の派遣に際しご協力をいただいた外務省、農林水産省、在アルゼンティン共和国日本大使館の関係各位並びにアルゼンティン共和国政府関係者に深甚の謝意を表するとともに、今後のご協力をお願いする次第である。

昭和63年1月

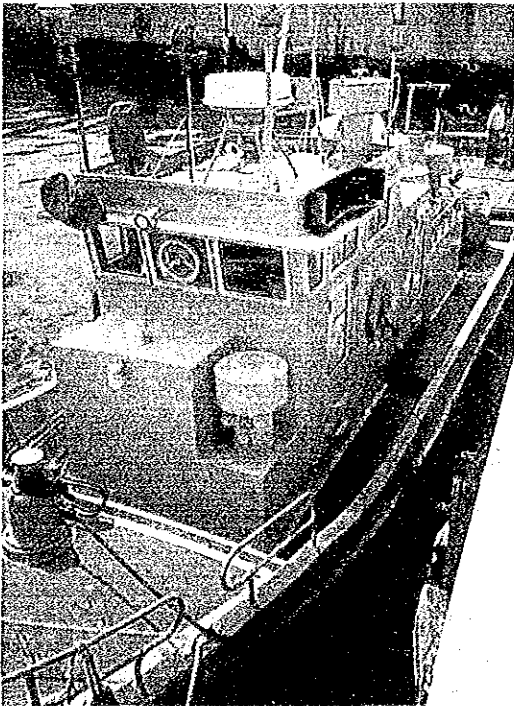
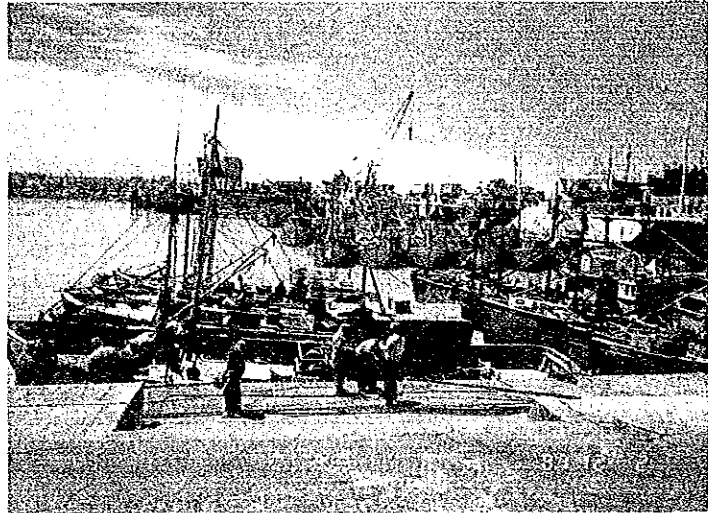
国際協力事業団

林業水産開発協力部長



国立漁業学校
専門家室

マル・デル・プラタ
漁港



国立漁業学校
訓練船ルイシート号

目 次

写 真

地 図

I	調査団の派遣目的	1
II	派遣期間	1
III	調査団の構成	1
IV	調査内容および調査項目	1
V	調査日程	2
VI	主要面会者リスト	3
VII	調査結果の概要	4
VIII	団長書簡	5
IX	団長書簡に対する国立漁業学校長からの書簡	7
X	海軍教育総局長の書状	9
XI	第4回合同委員会討議録（和訳）	11
XII	第4回合同委員会討議録	42

I 調査団の派遣目的

昭和61年10月に実施された巡回指導調査により、協力3分野のうち漁獲物処理の分野を除いて、あと2年間協力を継続することが確定した。

本年は本協力開始後4年目にあたり、現地点での進捗状況を調査し、最終2年間の協力の計画について見直しを行うことを目的として本調査が実施された。

II 派遣期間

昭和62年11月27日～12月8日(12日間)

III 調査団の構成

- | | |
|----------------------------|------|
| (1) 恩田 幸雄 (日本栽培漁業協会理事長) | 総括 |
| (2) 加藤 英雄 (水産庁国際課海外漁業協力室) | 訓練計画 |
| (3) 前川 晶 (JICA林間部水産業技術協力室) | 業務調整 |

IV 調査内容および調査項目

(1) プロジェクトの現状把握

漁具・漁法、漁業航海計器の協力2分野の実績と技術指導の現状、機材類の利用・管理状況およびローカルコスト負担などアルゼンティン側の協力体制の現状について調査する。

(2) 昭和62年度、63年度の計画の見直しと検討

専門家派遣、研修員受入れ、機材供与の各計画について検討、指導を行なう。

(3) その他プロジェクト運営に関する事項

V 調査日程

月日	曜日	内 容
11/27	金	東京——(RG831)——
28	土	← リオデジャネイロ——(RG910)——ブエノス・アイレス(12:10) 木村リーダー、千頭調整員、江塚JICA事務所員と日程打合せ
29	日	団内打合せ
30	月	JICA事務所にて打合せ 農牧漁業庁(旧海洋庁)表敬 海軍教育総局表敬
12/ 1	火	移動 ブエノス・アイレス(9:50) $\xrightarrow{\text{AU826}}$ マル・デル・プラタ(10:40) 国立漁業学校長表敬 日本人専門家との協議
2	水	INIDEP調査船HOLMBERG号及び魚市場・港湾関連施設視察 訓練船LUISITO号視察 国立漁業学校内視察 日本人専門家及び学校関係者との協議 合同委員会準備
3	木	第4回合同委員会 団長書簡提出 資料整理及び最終打合せ
4	金	移動 マル・デル・プラタ(11:00) $\xrightarrow{\text{AU412}}$ ブエノス・アイレス(11:50) 日本大使表敬 JICA事務所報告
5	土	ブエノス・アイレス(18:00)——(RG911)——
7	月	リオデジャネイロ(0:45)—— →
8	火	← (RG830)——→東京(13:30)

Ⅶ 主要面会者リスト

(アルゼンティン側)

MARCELO CARDILLO	農牧漁業庁参事官(顧問)
EMILIO INDALECIO NIGOUL	海軍教育総局総務部長
JUAN A. ROMANELLA	" 教育部
JUSTO A. ORTIZ	国立漁業学校校長
ALFONSO D. GIAVEDONI	" 副校長兼教務部長
LUIS MONTE	" 総務部長
HUGO H. BARBARINO	" 調達部長
DIEGO MAQUI	" 教授(漁具・漁法)
MARCELO LUCERO	" 教授(航海・運用学)
JUSTO P. LEON	" 機械工作室長
HÉCTOR A. HUGUENET	" 視聴覚教育担当主任
RODOLFO O. BAUDINO	" 視聴覚教育担当助手

(日本側)

山下和夫	在アルゼンティン日本国大使
西尾進	" 一等書記官
上村昌司	JICAアルゼンティン事務所長
富田実	" 業務第一課長
古屋年章	" 所員
江塚利幸	" 所員
木村雄吉	プロジェクトリーダー(チーフアドバイザー)
千頭聡	業務調整員
猪本善治郎	専門家(漁具・漁法)
河上楯夫	" (漁業・航海計器)
宮島俊彦	" (視聴覚教材作成)

Ⅶ 調査結果の概要

本プロジェクトは1987年4月1日から協力第2期の実施期間に入っており、第1期にて終了した「漁獲物処理」の分野を除く「カリキュラム編成」「漁具・漁法」「漁業航海計器」の3分野において、(1)教科書・マニュアルの作成 (2)A/V機器を用いた教材作成 (3)実習・演習にかかる指導の項目に従って協力を実施している。

チーム・リーダー、業務調整員、漁業航海計器の3名の専門家が任期満了のため交替したが、新・旧専門家の業務引継ぎが順調に行われたため、協力計画実施上円滑に推移している。

62～63年度実施計画については項目によっては計画中のものもあるが、概ね順調に技術移転計画は進行している。

62～63年度の重点項目として特に漁具・漁法、漁業航海計器の両分野で視聴覚教材の作成と実習・演習の充実化が計られている。

視聴覚教材作成は、国立漁業学校紹介用ビデオの作成により、上記両分野に係るビデオ作品の完成は若干遅れているが、協力期間内には予定通り完成の見込みである。

62年度専門家派遣、研修員受入れ事業に関してはそれぞれ2名を残しているが、年度内に実施できる予定である。63年度についてはそれぞれ4名実施を要望している。

機材類の利用・管理状況については、一部機材を除いてはおおむね有効に利用され、また管理状況も良好である。ただし、訓練船 LUISITO は11月に故障のため浸水し、現在使用不能となっている。これについては早急に修理を行うべく、現在手続きがとられている。

アルゼンティン側の協力体制については大きな変更点はない。

合同委員会ミニッツはプロジェクト・チームリーダーと国立漁業学校長との間でサインされ、また団長書簡を国立漁業学校長あて提出した。

Capitan de Navio (RE)
Dn Justo Alberto I. ORTIZ
Director de la Escuela
Nacional de Pesca

De nuestra mayor consideracion:

En primer lugar, en representacion de esta Mision para el Proyecto de la Escuela Nacional de Pesca, durante nuestra estadia en Argentina desde el 28 de noviembre al 5 de diciembre de 1987, quiero expresar nuestro sincero agradecimiento por la colaboracion brindada por la parte argentina.

Los motivos de nuestra visita a la Argentina en esta oportunidad, fueron los siguientes:

- 1) Evaluacion sobre el estado actual del avance del plan de ejecucion relacionado con los tres campos de cooperacion correspondientes al periodo comprendido entre noviembre de 1986 y marzo de 1987, y los dos campos a partir de abril de 1987 hasta el momento, con el fin de cumplir los objetivos del Proyecto estipulados en el R/D.
- 2) Revision y estudio del plan de ejecucion de los años fiscales correspondientes a 1987 y 1988.

Como el resultado de estos, mediante una serie de deliberaciones con los expertos japoneses y las personas relacionadas al Proyecto de la parte argentina, y la observacion de las instalaciones afectadas al mismo, se ha llegado a la conclusion de que el presente Proyecto se esta desarrollando en su mayoria, sin dificultades.

Considero que esto depende en gran medida de la sincera cooperacion de la parte argentina, encabezada por el Director Capitan ORTIZ y de sus colaboradores, para la administracion del Proyecto.

De ahora en adelante, nos resta un año y medio para terminar el Proyecto; tengo plena confianza en que la finalizacion de esto sera la culminacion brillante a traves de los ultimos esfuerzos por ambas partes, Argentina y Japon.

Sinceramente



YUKIO ONDA

Jefe de la Mision Japonesa

団長書簡（和文）

国立漁業学校長

オルティス 殿

マル・デル・プラタ，1987年12月3日

初めに、1987年11月28日から12月5日までの私達のアルゼンティン滞在中、私達に対するア側の御助力に対し、国立漁業学校プロジェクト巡回指導調査団を代表し、心から感謝いたしたいと思います。

私達の訪「ア」目的は次のとおりでした。

- 1) R/D上記載されているプロジェクトの目標の達成に向けた1986年11月から1987年3月までの3協力分野及び1987年4月以降現在までの2協力分野における実行計画の進捗状況の現状調査
- 2) 1987、1988年度の実行計画の見直しと検討

ア側プロジェクト関係者、日本人専門家との一連の協議及びプロジェクト関連施設等の調査の結果、プロジェクトが大旨順調に行われていることがわかりました。これはプロジェクト運営に対するオルティス校長を初めとするア側関係者の真摯な対応によるところが大きいと思います。

今後本プロジェクトは残すところ1年余となり、目標達成に向けてア・日双方の最後の努力が払われ、必ずや有終の美を飾ることができるものとかたく確信いたしております。

調査団 団長

IX 団長書簡に対する国立漁業学校長からの書簡(西文)

ARMADA ARGENTINA

Nº 154/87

Letra -ESNP,GCJ.

MAR DEL PLATA, 3 de Diciembre de 1987.

Señor YUKIO ONDA.
Jefe de la Misión Japonesa.
Escuela Nacional de Pesca.

De mi mayor consideración:tengo el agrado de dirigirme a Usted para acusar recibo de su atenta carta del día de la fecha, en la que detalla las conclusiones de su visita a esta Escuela Nacional de Pesca, en relación a las evaluaciones realizadas, de acuerdo a lo establecido en el R/D (Record of Discussions)

Atento al contenido de dicha carta, deseo manifestarle que se está de acuerdo con lo expresado en la misma, y que ella será presentada durante las deliberaciones del 4to. Comité Conjunto.

Aprovecho la oportunidad para saludar a Usted muy atentamente;




JUSTO ALBERTO I. ORTIZ
CAPITAN DE NAVIO (RES)
DIRECTOR

En representación del
Señor Director General
de Instrucción Naval.

団長書簡に対する国立漁業学校長からの書簡（和文）

恩 田 団 長 殿

マル・デル・プラタ，1987年12月3日

R/Dに基づいて実施された国立漁業学校訪問により、評価の結果について記されている本日付の書簡を受け取りました。

その内容につきましては、当方としても同意致し、第4回合同委員会において紹介させていただきます。

オルティス 校長

X 海軍教育総局長の書状(西文)

ARMADA ARGENTINA

Nº

Letra

ORDEN DEL SEÑOR DIRECTOR GENERAL DE INSTRUCCION NAVAL

Nº 02/87

OBJETO: Designar representante DGIN.

Designase al Señor Director de la "ESCUELA NACIONAL DE PESCA COMANDANTE LUIS PIEDRA BUENA", Capitán de Navío (RE) Dn JUSTO ALBERTO ORTIZ, representante del DIRECTOR GENERAL DE INSTRUCCION NAVAL, para presidir la reunión del 4to. Comité Conjunto" que evaluará los resultados del Convenio de Cooperación Técnica Argentino - Japonés, relacionado con el proyecto de la nueva ESCUELA NACIONAL DE PESCA (RECORD OF DISCUSSIONS) a llevarse a cabo en la ciudad de Mar del Plata el día 04 de diciembre del corriente año.-

BUELOS AIRES, 27 NOV 1987

ES COPIA



Juan Alberto Romanella
JUAN ALBERTO ROMANELLA
TENIENTE DE NAVIO (RE)
JEFE

EMILIO J. NIGOUL
CONTRAALMIRANTE
DIRECTOR GENERAL

海軍教育総局長の書状（和文）

N° 02 / 87

ブエノスアイレス、1987年11月27日

1987年12月4日にマル・デル・プラタ市で催される、R/Dに基づいた国立漁業学校プロジェクトに関する日ア技術協力協定の評価のための第4回合同委員会において、海軍教育総局長の代理として議長を努めるよう、ルイス・ピエドラ・ブエナ国立漁業学校校長 J. A. オルティス大佐（退）を指名する。

海軍教育総局長

E. I. ニイグール

XI アルゼンティン国立漁業学校プロジェクト

第4回日ア合同委員会

討議録(和訳)

1983年12月9日ブエノス・アイレスにて署名されたR/Dに基づいて、国立漁業学校における海洋漁業教育の向上をはかり、もってア国の海洋漁業の発展に資することを目的として本国立漁業学校にかかる技術協力プロジェクトが1984年4月1日から実施されてきた。

国際協力事業団によって派遣され、かつ恩田幸雄日本栽培漁業協会理事長(元水産庁次長)を団長とする本プロジェクトにかかる巡回指導チームのア国滞在中において、R/D第10条に基づき、1987年12月3日マル・デル・プラタの国立漁業学校において第4回合同委員会が開催された。

日本及びア国側委員は、1986年11月から現在までのプロジェクトの実施状況等につき意見を交換し、かつ協議の結果として、別添のと通りの討議録を作成した。

マル・デル・プラタ, 1987年月12月3日

(日本側)

国立漁業学校プロジェクト

チーフ・アドバイザー

木村雄吉

(ア国側)

Justo A. Ortiz

退役海軍大佐、国立漁業学校長

合同委員会委員長代理権者

第4回日ア合同委員会

1987年12月3日

マル・デル・プラタ

I 総論

1983年12月9日ブエノス・アイレスにて署名されたR/Dに基いて、国立漁業学校における海洋漁業教育の向上をはかり、もってア国の海洋漁業の発展に資することを目的として、本国立漁業学校にかかる技術協力プロジェクト（以下プロジェクトという）が1984年4月1日から実施されてきた。

プロジェクトの準備期間として位置づけられている1984年度（以下日本の会計年度：4月1日～3月31日）におけるプロジェクトの実施状況については、1985年3月18日に実施された第1回合同委員会に提出するために既に総括的にとりまとめられた。

また1985年度におけるプロジェクトの実施状況については、1986年4月17日に実施された第2回合同委員会に提出するために既に総括的にとりまとめられた。

1984年4月から10月までのプロジェクトの実施状況、並びにその他の附帯事項については1986年10月31日に実施された第3回合同委員会に提出するために、既に総括的にとりまとめられた。従って、ここではそれらを省略する。

本資料は第4回合同委員会に提出するためのもので、その目的は、(1)1986年11月から1987年3月までのプロジェクトの実施状況について、(2)1987年4月から現在までのプロジェクトの実施状況について夫々とりまとめること、及び(3)1988年以降におけるプロジェクトの実施に関する概要を提示することにある。

II 1986年度技協プロジェクトの実施結果（1986年11月～1987年3月）について

(1) 1986年度実施計画の概要

1984年度のプロジェクト準備期間において日アプロジェクト関係者が協議をして、1985年～1986年度技術移転及び共同作業計画（以下1985～1986年度計画という）を作成した。

本計画は第1回合同委員会で承認されたものであり、本プロジェクトの目的である漁業教育の向上のために実施される下記の4つの大項目からなる。それらの大項目は3つの協力分野、すなわち漁具漁法、漁獲物処理、漁業航海計器に共通している。

a) カリキュラムの改善指導

b) 各種テキスト、マニュアル等の教材作成

c) 各種A/V教材の作成

d) 各種実習(海上/陸上)、演習にかかる指導

各分野ともに、それらの大項目は更に実施されるべき小項目からなる。これら総ての大項目は1985～86年の2年間において計画通り完成した。

(2) 実施状況

(A) 協力分野別の技術移転及び共同作業の実施状況

1985～86年度計画のうちの1985年度における実施状況にかかる評価については1986年4月17日の第2回合同委員会においてなされたとおりであり、1986年4月から10月までの実施状況にかかる評価については1986年10月31日の第3回合同委員会においてなされたとおりである。

1985～86年度計画のうちの1986年11月から1987年3月までの全体的な実施状況については日ア双方のプロジェクト関係者によってとりまとめられた別添の実施表及びそれにかかるコメントのとおりである。

本委員会において、それらの表及びコメントに基いてその実施状況が評価された。その結果、日ア双方の委員の間で評価において意見の相違がないことが最終的に確認された。

(B) 専門家の派遣

長期専門家については1984年度に派遣された専門家5名が1987年3月までの期間プロジェクトの実施に当って来た。

1987年3月、上記の専門家5名の中、4名の任期終了、帰国に伴い、1987年度～1988年度のプロジェクトを実施するため、新たに専門家3名が下記の通り派遣された。

尚、漁具漁法分野は1989年3月まで引き続き猪本善治郎専門家が、これを担当することになっている。

	1987年3月迄の専門家	1987年4月以降の専門家
チーフ・アドバイザー	森 敬四郎 (20.10.1984～30.3.1987)	木村 雄吉 (6.3.1987～31.3.1989)
業務調整	中内 清文 (23.4.1984～31.3.1987)	千頭 聡 (10.3.1987～31.3.1989)
漁具漁法	猪本 善治郎 (11.6.1984～)	猪本 善治郎 (~31.3.1989)
漁業航海計器	井内 敏正 (6.8.1984～31.3.1987)	河上 楯夫 (15.3.1987～31.3.1989)
漁獲物処理	児玉 哲明 (11.6.1984～31.3.1987)	_____

1986年11月以降1987年3月までの期間において派遣された短期専門家は下記の通りである。

尼岡邦夫（有用魚類資料収集整理）

4. 11. 1986～30. 11. 1986

(C) CPの日本での技術研修及び視察

1986年11月以降1987年3月までの期間において日本での技術研修及び視察を行ったCPは以下の通りである。

a) A/V教材作成 Hector A. HUGUENET

22. 1. 1987～5. 3. 1987

b) 訓練船機関 Justo P. LEON

22. 1. 1987～15. 2. 1987

(D) 機材供与について

1986年度技協機材については空送分及び海送分を含め、1987年3月迄に全量プロジェクトサイトに到着した。

(E) A側のプロジェクト実施協力体制

(a) CPの手当

本期間（1986年11月～1987年3月）におけるA側のCPの手当状況は以下のとおりである。

a) Justo Alberto ORTIZ	校長
b) Alfonso D. GIAVEDONI	副校長
c) Luis MONTE	総務部長
d) Hugo Humberto BARBARINO	調達部長
e) Diego MAQUI	教授、漁具漁法
f) Yves Marcelo GHYS	教授、漁獲物処理
g) Marcero LUCERO	教授、航海/運用
h) Horacio ESPINOSA	訓練船航長
i) Pastor LEON	訓練船機関長/機械工作室長
j) Hector Armand HUGUENET	A/V機器担当主任
k) Salvador PETELIN	訓練船機関長
l) Hector F. MENDOGA	A/V機器担当助手

(b) プロジェクトにかかる予算

1986年度（11月～3月）においてもアルゼンティン側は本プロジェクトの実施に必要な諸経費を負担しており、その実施において支障はなかった。

(c) ア側の執るべき措置

アルゼンティン側の執るべき措置に関するR/Dの条項は、下記のとおりである。

- 1) 条項 II-2
- 2) 条項 V-1及び2
- 3) 条項 VI-1-(1)及びVI-2-(1) (3)

本期間においても、アルゼンティン側は上記の措置を履行するため限定された予算の範囲内においてはああるが、真しな努力を払ってきた。従って、これらの措置の履行につき問題点はない。

III 1987年度(1987年4月～11月)技術プロジェクトの実施結果について

R/Dに記載されている本プロジェクトの協力実施期間5ケ年のうち、4年目以降の実施にかかる基本方針につき、1986年10月31日に実施された第3回合同委員会において協議が行われ、日ア双方による合意がなされた。

第3回合同委員会にて合意された基本方針に基づき、1987年度の当初において、日アプロジェクト関係者が協議をして、別添のと通りの1987～88年度技術移転及び共同作業計画(以下1987～88年度計画という)を作成した。

以下の1987年度の実施計画、及び実施状況は1987～88年度計画を基盤として作成したものである。

(1) 1987年度実施計画の概要

(A) 協力分野

1984～1986年度において実施された協力対象の3分野のうち、漁獲物処理分野については、第3回合同委員会における合意に基いて1987年3月末をもって当分野の教科に見合う技術移転及び共同作業は終了した。

1987年度以降の実施計画は漁具漁法及び漁業航海計器の2分野について作成したものである。

(B) 実施計画の作成についての基本方針

漁具漁法分野においては、ア国で未だ普及していない漁業技術の指導、訓練船Luisitoによる海上訓練の充実化、及び漁業に関する視聴覚教材の充実を計ることに重点を置いて実施計画を作成した。

また漁業航海計器の分野においては操舵装置等の新しい計器類(61年度及びそれ以降の供与機材)に関する技術指導及び視聴覚教材の充実化を計ることに重点を置いてその実施計画を作成した。

尚、1987年度以降の実施計画も1984～86年度からの継続実施を基調として行うものである。従って、その実施方法は従来からの手法に沿って実施する。

即ち、実施項目は

- I) カリキュラムの編成助言
- II) 教科書、マニュアルの作成
- III) A/V機器を用いた教材作成
- IV) 実習、演習にかかる指導

各分野共に、それ等の大項目は更に実施されるべき小項目からなっている。

(2) 1987年度の実施状況

(A) 協力分野別の技術移転及び共同作業の実施状況

1987年4月から現在までの全体的な実施状況については、日ア双方のプロジェクト関係者によってとりまとめられた別添の実施表及びそれにかかるコメントのとおりである。

本委員会において、それらの表及びコメントに基づいて、その実施状況が評価された。その結果、日ア双方の委員の間で評価において意見の相違がないことが最終的に確認された。

(B) 専門家の派遣

長期専門家については、下記の4名の専門家が1987年4月から現在までプロジェクトの実施に当たってきた。

チーフ・アドバイザー	木村雄吉	(1987年3月6日～1989年3月31日)
業務調整	千頭聡	(1987年3月10日～1989年3月31日)
漁具漁法	猪本善治郎	(1984年6月11日～1989年3月31日)
漁業航海計器	河上楯夫	(1987年3月15日～1989年3月31日)

1987年度においては現在まで下記の短期専門家が派遣された。

- a) 佐藤 惣一 視聴覚機材の据付け
(1987年5月22日～6月5日)
- b) 宮 嶋 俊彦 視聴覚教材作成指導
(1987年7月26日～1988年1月21日予定)
- c) 工 藤 真彦 視聴覚教材作成指導
(1987年7月26日～10月7日)
- d) 三 宅 耕一 自動操舵装置の据付け
(1987年9月29日～10月11日)

これらの短期専門家はアルゼンティンCPに対して意義ある指導、又は作業を行った。なお、1987年度において、今後その派遣が期待されている短期専門家は下記のとおりである。

- (a) 漁業技術及び学校管理に関するマイコン活用指導 約25日間
- (b) マイコン・ワープロ保守点検 約10日間

(C) CPの日本での技術研修及び視察

1987年度において日本で技術研修又は視察を行ったCPは以下のとおりである。

- (a) 漁具漁法 DIEGO ROGELIC MAQUI
1987年7月16日～8月2日
- (b) 漁業教育視察 MANUEL RODOLFO LAMAS
1987年8月3日～8月16日

なお、1987年度の残余期間に技術研修及び視察の実施が期待されているCPは以下のとおりである。

- (a) 視聴覚教育実習 RODOLFO O. BAUDINO
1988年1月下旬より約50日間
- (b) 漁業航海計器 MARCELO R. LUCERO
1988年1月下旬より約1ヶ月間

(D) 機材供与について

1987年度技協機材については現在JICAにおいて購送の手続き中であり、空送分については1988年1月、第1次申請機材の海送分については2月～3月、第2次申請機材の海送分については4月～5月の期間に、本学校に到着するものと思料される。

なお、技協機材中の現地調達機材については1987年11月から、その購入を開始し、1988年1月迄に完了する見込である。

(E) A側のプロジェクト実施協力体制

(a) CPの手当

本期間におけるA側のCPの手当状況は以下のとおりである。

- a) Justo Alberto ORTIZ 校長
- b) Alfonso D. GIAVEDONI 副校長
- c) Luis MONTE 総務部長
- d) Hugo Humberto BARBARINO 調達部長
- e) Diego MAQUI 教授、漁具漁法
- f) Marcero LUCERO 教授、航海／運用
- g) Horacio ESPINOSA 訓練船船長
- h) Justo Pastor LEON 機械工作室長
- i) Hector A. HUGUENET A/V機器担当主任
- j) Rodolfo O. BAUDINO A/V機器担当助手
- k) Domingo R.E. BRIZUELA 訓練船機関長

その他にサービス要員等の手当もなされており、R/D上に基づくア側関係者の手当にかかるア側の措置は高く評価される。

(b) プロジェクトにかかる予算

1987年度においてもアルゼンティン側は学校運営にかかる、かなり限定された予算の中から、本プロジェクトの実施に必要な諸経費は負担するよう配慮してきたので、その実施において支障はなかった。

なお、ア側は大統領令1238/87号により教育関連職員、会計、サービス要員を新たに雇用できるべく人件費予算の増加を獲得した。

(c) ア側の執るべき措置

アルゼンティン側の執るべき措置に関するR/Dの条項は、下記のとおりである。

- 1) 条項 II-2
- 2) 条項 V-1及び2
- 3) 条項 VI-1-(1)及びVI-2-(1) (3)

1987年度においても、アルゼンティン側は上記の措置を履行するため、限定された予算の範囲内においてはああるが、真しな努力を払ってきた。従って、これらの措置の履行につき問題点はない。

IV 1988年度におけるプロジェクトの実施に関して

(1) 1988年度実施計画の概要

1988年度におけるプロジェクトは引続き、1987～1988年計画に基づいて実施される。

即ち、1988年度では、1987年度において実施されなかった、または実施途中の諸項目について、日ア協力して完成することが目標となる。

(2) 1988年度プロジェクト実施にかかるア側の要望

1988年度においては、下記のとおり、日本側に暫定的に要請したい。

(A) 短期専門家の派遣について

- (a) 1987年度において計画されていたが、派遣が実現しなかった専門家
- (b) 漁業技術及び漁業学校管理運営におけるマイコン活用指導専門家
- (c) 視聴覚機器保守点検専門家
- (d) 視聴覚教材作成指導専門家

(B) CPの日本研修について

- (a) 教材作成のためのワープロ、マイコン実習
- (b) 漁業教育カリキュラム編成方法と実態視察
- (c) 視聴覚教育実習
- (d) 漁業教育行政

(C) 機材供与について

1988年度供与機材のできるだけ早い時期の供与を要請することが望ましく、大至急必要になる資機材は空送で送れるよう優先順位を与えたい。

V 特記事項

- (1) 日本側は、本プロジェクトの運営に関するア側のこれまでの真しな対応を高く評価する。
- (2) 日ア双方は、巡回指導チーム恩田幸雄団長がオルティス校長に手渡した団長書簡を十分に尊重し、本プロジェクトの最終年度にあたり、双方の一層の協力をもって総ての実施項目を完成させることを希望する。同時に、日ア双方は、協定が満了し日本人専門家がいなくなっても、独自の力で教育レベルが継続して向上するよう、最終年度における双方の一層の努力を希望する。

第4回合同委員会出席者

(1) アルゼンティン側

Tusto A. ORTIZ	校長、合同委員会委員長代理権者
Alfonso D. GIAVEDONI	副校長兼教務部長
Luis MONTE	総務部長
Hugo H. BARBARINO	調達部長
Juan A. ROMANELLA	海軍教育総局教育部
Diego MAQUI	教授、漁具漁法
Marcelo LUCERO	教授、航海／運用学
Justo P. LEON	機械工作室長
Héctor A. HUGUENET	A/V教育担当主任

(2) 日本側

木村雄吉	チーフアドバイザー
千頭 聡	専門家、業務調整
猪本善治郎	専門家、漁具漁法
河上 楯夫	専門家、漁業航海計器
江塚利幸	JICAアルゼンティン事務所業務2課職員
西尾 進	日本大使館一等書記官（オブザーバー）
恩田幸雄	巡回指導チーム団長（オブザーバー）
加藤英雄	〃 団員（オブザーバー）
前川 晶	〃 団員（オブザーバー）

61年度(11~3月)プロジェクト実施計画内容、実施状況

(漁具・漁法分野)

大項目	重点実施内容	実施方法及び実施状況	評価、問題点及びコメント
[A] カリキュラムの編成助言			<p>(コメント) 今迄助言して来た実習教科を重視したカリキュラム編成が既に確立されたので、この期間には実施の必要を認めなかった。</p>
[B] 講義用教材及びマニュアルの作成	<p>60~61年度、2年間計画での残り分の完成。</p>	<p>(1) 補助テキスト“世界の旋網漁業”の作成。 (完了) (2) 鱈竿釣漁具及び鱈、鮪、平目の良網漁具の標本室の見本のスペイン語による説明書の作成。 (完了)</p>	<p>(評価) これらの作業は、初め日本語にて原稿を作成し、その後、カウンターパートと共同で西訳及びチェック修正を行い完成されているので、カウンターパートもこの共同作業の間にテキストやマニュアルを咀嚼、習得して授業に活用する故、教育内容の充実に貢献しているものと評価する。</p>
[C] 視聴覚教材の作成	<p>60~61年度、2年間計画での残り分の完成。</p>	<p>(3) トロール網の縮尺模型の水槽実験における抵抗の測定及び自記記録紙のマニュアルの作成。 (完了) (4) アルゼンティン海域の魚種の魚探反応例の収集。 (大略終了)</p>	<p>(1) 12月5日 INIDEP の調査船 HOLMBERG 号の試験乗業に乗船し、自ら撮影し作成した。 (2) 左記のビデオ教材は日本製で編集の必要あるが取敢えず早く活用出来るように、そのままナレーションをカウンターパートと共同して西訳した。 尚、これらのビデオ教材は既に幾々授業に使用されている。</p>
[D] 実習・演習の指導			<p>本項目の今期の計画は、既に修了済み。 (訓練船の今年度の巡航計画は10月末で修了し、生徒は11月卒業試験、12月より休暇に這入った。)</p>

(漁具・漁法分野) 60~61年度 2年間の技術移転実施計画の進捗状況 (昭62年3月末現在)

大項目 PRINCIDIO	中項目 ARTICULOS	小項目 DETALLA	進捗状況					備考 NOTA
			A	B	C	D	E	
1. カリキュラム編成 助言	1) 実習項目の設定	1) 短い授業時間数上生徒の資質より、理論より実習・演習に重点を置いて編成すること。	↑	↑	↑	↑	↑	(註) A.....計画 B.....実施 C.....中ば完了 D.....ほぼ完了 E.....完了
	2) 各単示への総合的時間配分	2) 座学と実習・演習を併行して実施するよう、総合的に検討して時間を配分し、編成すること。	↑	↑	↑	↑	↑	
2. 講義用教材及びマニュアルの作成	1) 補足テキストの作成	1) a) 日本に於けるトロール漁具の改良・発達の推移とその要点	↑	↑	↑	↑	↑	シリーズ番号 1985-009 前半(16頁)
		b) トロール網の調査法と深海及び粗海底漁場採集時の破損防止対策	↑	↑	↑	↑	↑	“ 全上 後半(15頁)
		c) えびトロール漁具・漁法	↑	↑	↑	↑	↑	“ 1986-003 (32頁)
		d) 世界の旋網漁業	↑	↑	↑	↑	↑	“ 1986-012
		e) イカの機械釣り漁具・漁法	↑	↑	↑	↑	↑	“ 1986-004 (18頁)
		2) a) テンションメーター(ニチモクPT-2型)	↑	↑	↑	↑	↑	“ 1985-004 (4頁)
		b) 自動イカ釣り機(はまで式 MD-3)	↑	↑	↑	↑	↑	“ 1986-005 (14頁)
		c) 漁具実験用回流水槽(西日本)	↑	↑	↑	↑	↑	“ 1985-002 (12頁)
		d) ショッピング引張試験機(東京試験機05-500)	↑	↑	↑	↑	↑	“ 1985-003 (4頁)
		3) 図版、掛け図、説明写真等の作成 (標本、見本の漁具類)	↑	↑	↑	↑	↑	↑
		b) 鯨の一本釣り漁具・漁法	↑	↑	↑	↑	↑	
		c) イカの機械釣り漁具・漁法	↑	↑	↑	↑	↑	
		d) 曳網漁具(カゾオ、マクロ、ヒラメ)	↑	↑	↑	↑	↑	
		e) 罾網漁具(カニ、エビ、タイ)	↑	↑	↑	↑	↑	
		f) 刺網漁具(カニ、イカ、イワシ、タイ類)	↑	↑	↑	↑	↑	

60～61年度 2年間の技術移転実施計画の進捗状況

大項目 PRINCIPIO	中項目 ARTICULOS	小項目 DETALLA	進捗状況					備考 NOTA	
			A	B	C	D	E		
3. 視聴覚教材の作成	4) アルゼンチン海域の主要魚種の魚探反応記録 1) O. H. Pのネガ作成 2) スライドのネガ作成 3) ビデオテーブの作成	4) メルルサ、片ロイワシ、アジ、平目、エビ、イカ等					↑		
		1) a) 日本各種トロール網の設計図 b) 世界のえびトロール網の設計図						↑	
		2) 各種漁業の漁船、漁具、操業状況等						↑	
		3) 日本製の主要漁業のビデオテーブの教室で利用の為のナレーションのスベイン語訳						↑	
4. 演習・実習の指導 助言	1) 陸上実習 2) 海上実習	1) a) ショッパー引張試験機、回流水槽を使用しての各種実験実習 b) 底曳、中層トロール網の実地作成						↑	
		2) a) トロール操業実習（底曳き及び中層曳き） b) 刺網や筥網等、トロール漁業以外の漁業の操業実習						↑	未着手（学校のトロール漁業以外の実習担当教官の補充が遅れ、又実習項目にも採用されていない。）

60～61年度 2年間の技術移転の当初計画外の実施状況

大項目 PRINCIDIO	中項目 ARTICULOS	小項目 DETALLA	進捗状況					備考 NOTA	
			A	B	C	D	E		
講義用教材及びマニュアル作成	1) 補助テキスト作成	1) “すけそうたらの日照と游泳層の変化”と“これに対応してのトロール網の改良発達”						↑	シリーズ番号 1986-002 (13頁)
		b) 訓練船“LUISITO”で使用中のトロール網(底曳き及び中層曳き)の模倣網の水槽実験結果と考察						↑	” 1986-007 (17頁)
		c) 模型トロール網の水槽実験データより実物網の抵抗、網口高さ、袖先間隔のコンピュータ利用による計算方法						↑	” 1986-008 (14頁)
	2) マニュアルの作成	a) デジタル式流速計						↑	” 1986-006 (6頁)
		b) トロール模倣網の水槽実験に於ける抵抗測定機及び抵抗値の自記録機						↑	” 1986-011

〔漁具・漁法分野〕

62～63年度 技術移転及び共同作業実施計画

担当専門家：猪本善治郎
 カウンターパート：D. R. MAQUI

大項目	目標又は方針	項目及び詳細	備考
〔A〕カリキラムの編成助言	ア国の漁業実態に即し、且つ将来、ア国漁業の発展に貢献するカリキラムの編成を計る。	ア国漁業の現状に即し、トロロール漁業・漁法に重点を置いた現在のカリキラムを改良し乍ら、今後のア国及び世界の漁業界の動静に応じ、例えば“イカ”の自動機械釣り漁業”のように、ア国に於いて将来有望と思われる漁業関係等の教材を組入れたり、又、補強するように助言してゆく。	(1) ア国大陸棚周辺のイカ漁場は、今や世界最大の漁場となり150隻を越える諸外国のイカ釣漁船が集中して操業しており、又ア国の漁業者もトロロール船や網延縄船を改造し本漁業に乗り出して来た。 (2) 日本の海外漁業協力がINIDEPと共同で進めている大陸棚斜面漁場でのキングトラリッドや底ムシ類の日本式底延縄漁具・漁法での調査操業は次第に漁獲成績も向上し、将来、有望と見られるようになった。
〔B〕講義用教材及びマニュアル等の作成	ア国の漁場で将来有望と思われるが、まだア国では普及していない漁具・漁法の技術指導を目標に、右の項目に絞って実施する。 (註) 前期は本項目を優先させ、トロロール漁業関係を中心に7冊の補助テキストや6冊の新規到着機器のマニュアルを作成した。	(1) 講義用教材の作成 i) イカ釣り漁具・漁法の現在のア国テキストの充実化。 (第2テキストの作成) ii) 深海底延縄の漁具・漁法のア国テキストの新作。 iii) ア国沖合漁場に於ける網延縄や鯛の電漁業、製品輸出生産漁業の漁具・漁法の教材作成。 (2) マニュアルの作成 i) 自記式水深計(網口高さ測定用)の完成。 ii) 電動リールの完成。	(1) i) ii) の教材テキスト作成に当っては、62年度実施予定のMaqui C.P.の北日本に於ける本分野の研究成果も盛り込む。 (2) i) ii) とも70%終了(西沢達終了が、C.P.のチェック学習遅れていた)。後はC.P.のチェック終了後、挿絵を配直し製本する。
〔C〕視覚教材の作成	ビデオテープの編集機、その他諸機器到着し6月に設置される予定で、又A/V教材作成の短期専門家も来訪するのでC.P.と共にこの項目に重点を置いて最優先的に実施する。	(1) ビデオ教材の作成 i) 既存の日本の漁業関係ビデオ25本より抜粋し、本校の漁具・漁法の授業用に下記6本に編集し、スペイン語のナレーションを吹き込む。 ① 底延縄 ② 中層トロロール ③ イカ釣り漁業 ④ 網延縄漁業 ⑤ 延縄漁業(鯛及び鯛の底延縄) ⑥ その他(鯛及び鯛の網延縄) ii) マルテアルアラダ沖の片ロワイラン漁業(LUISITO)による中層トロロール及びランチャ(沿岸小型船)によるランパバラ網漁業	(1) 左記の既存の25本のビデオテープは、海洋水産資源開発センターや漁業協会や漁船や漁業航海計器のメーカーが、日本人向けや諸外国の漁業者向けに作成したもので、本校の生徒には全く意味のない会社宣伝の部分が多く含まれている。 従って、授業用に抜粋、編集しなおして、スペイン語のナレーションを吹き込むことが必要である。
〔D〕実習・演習の指導		(2) スラライト教材の追加作成と、既存のものとの統合整理。 (1) 片ロワイラン漁場に於ける中層トロロールの効果的操業指導。 (2) 試験船によるトロロール漁業以外の漁業実習。	

(漁具・漁法分野)

62年度(4~11月) プロジェクト実施計画内容、実施状況

担当専門家：猪本 善治郎
カウンスラー：D. R. MAQUI

大項目	重点実施内容	実施方法及び実施状況	評価、問題点及びコメント等
[A] カリキュラムの編成助言	基本的には従来のカリキュラムを踏襲し、その上で、ア国漁業界の今後の動きや、要望にも対応するカリキュラムの編成。	最近近に漁業界で注目を浴びて来た、イカ釣漁業や底延組漁業について、本分野の担当教授のC.P.を日本で研修させ、その知識を深めさせると共に、その重要性を認識せしめた。	イカ釣漁業については、C.P.はテクニスト作成の西記に参画させたが、今回の日本研修でその有利性及び日本漁船の動きを実感すると共に、その知識や技術も習得し、その単元や授業の充実に自覚を得たことは、将来のア国漁業の発展に貢献するものと思う。
[B] 講義用教材及びアニマルの作成	イカ釣漁業の第二テクニストの作成。	第一テクニストは初歩的な漁具・漁法、漁務設備等の紹介であったが、今回は一歩掘り下げて船長・漁務長としての漁具の選択、漁務機器の整備及び操業上に於けるポイント及び注意事項を中心に原稿を作った。	(コメント) 今年の冬休にPPPの本校生徒が試験操業の韓国のイカ釣船に乗船したり、又、最近には日本人指導員乗船のトロロール船もイカ釣の漁期にはイカ釣機を取付け、夜間はイカ釣の操業を実施する等、イカ釣漁業が本校の生徒にも身近なものになって来た。
[C] 視聴覚教材の作成	(1) 既存の日本人向けの宣伝の導入した各種の漁業紹介ビデオテープより、本校の教材として適切なものへの編集。	(1) 中層トロロール及びイカ釣漁業のビデオ教材については、シナリオ作成及びナレーションの西記まで終了。(編集機が学校紹介ビデオの編集に使用されているので、それが終了次第編集作業にかかるとの予定。)	(コメント) (1) 学校側より来年度の生徒募集に間に合うよう学校紹介及び宣伝のビデオテープの作成を要望されており、それに沿って、当分野のビデオ編集作業を後週とし、その学校紹介ビデオ作成に、カウンスラーと共に、当分野の授業や実習風景の録画とりに全面的に協力した。
[D] 実習・演習の指導	(2) 資源的に将来性のある片ロイワシ漁業についてのビデオ教材の新作。	(2) 片ロイワシ漁業のビデオ教材作成は、沿岸船のランペラ網による操業風景及び訓練船LUISITOの中層トロロール操業の救揚網作業、魚探反応等3日間に亘り洋上録画とより実施したが、漁獲物の船内取込み及び処理作業が残った。	(コメント) (2) 片ロイワシ漁業のビデオ教材作成は学校紹介ビデオの優先作成及び甲種二等航海士の臨時の講習や、JICA主催の沿岸漁業振興セミナーの本校に於ける開催等と重なり、漁期を失し、完成は来年にも越された。
		従来の中層トロロール網の破網部の修理及び新しい中層トロロール網の浮力、沈力のバランスの調整指導助言。	(コメント) 今年の片ロイワシ漁は9月中旬に始まり10月中旬までは漁場も近く、漁獲も良くLUISITOも10月2日の操業では、片ロイワシが通入り過ぎて、獲網出来ずに破網した程だったが、その後、長雨で片ロイワシが沿岸から遠ざかり、漁場も遠くなり、又、前記のような漁業セミナーその他で漁期を失し、あまり効果的指導が出来なかった。

大項目	中項目	小項目	進捗状況					備考
			A	B	C	D	E	
[A] カリキュラムの編成助言		ア国漁業の現状に即したトロール漁業に重点を置いたカリキュラムを踏襲し、且つ、ア国及び世界の動向に応じイカ釣漁業の様態にア国にとって将来有望な漁業関係の教科も組入れ、補強するように助言する。	↑					(註) A.....計画 B.....実施中 C.....ほぼ終了 D.....ほぼ終了 E.....完了
[B] 講義用教材及びマニュアル等の作成	(1) 講義用教材の作成	(1) i) イカの機械釣漁業の現在テキストの補足充実 ii) 深海底延縄の漁具・漁法テキストの新作 iii) 延縄やタイ巻漁業等の輸出志向の漁具・漁法に関する教材作成	↑	↑	↑			
	(2) マニュアルの作成	(2) i) 自記式水深計のマニュアルの完成 ii) 電動リールのマニュアルの完成	↑	↑				
[C] 視聴覚教材の作成	(1) ビデオ、テープ教材の作成	(1) i) 既存の日本の漁業関係ビデオ教材より ① 箱底トロール 漁具・漁法 ② 中層 " " ③ イカの機械釣り " " ④ 旋網 " " ⑤ 底延縄 " " ⑥ その他漁業 " " ii) マデルプラブラ沖の片ロイワシ漁業のビデオ教材作成	↑	↑	↑	↑	↑	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	進 捗 状 況					備 考
			A	B	C	D	E	
(D) 実習・演習の指導	(2) スライド機材の追加作成及び各漁業別の整理	(2) 1) トロール漁業関係スライド	↑					
		2) イカ釣漁業関係	↑					
		3) 底延縄漁業関係	↑					
		4) その他	↑					
		(1) 片ロワイション漁期に於ける中層トロール網による効果的な操業実習指導	↑					
		(2) 訓練船によるトロール漁業以外の漁業実習の指導	↑					

61年度(11~3月)プロジェクト実施計画内容及び実施状況

〔漁業航海計器分野〕

大項目	重点実施内容	実施方法及び実施状況	評価、問題点及びコメント他
〔A〕カリキュラムの編成	教育指導要綱案の作成。	カウンタパートと打合せながら、当分野の教育目標到達レベルを各コース別、単元毎に設定し、リーダーに提出した。	現在のカリキュラムには特に問題はないと思われるが、1987年以後にはカラーリーダー、航跡プロッター等のカリキュラム編入が必要と予想される。
〔B〕講義用テキスト、マニュアルの作成	すでに終了。		機器については操作、取扱いに特に支障はないと判断している。62年3月に到着した機材については、テキスト、マニュアルを完成させる事が望ましい。
〔C〕視聴覚教材の作成	漁業用超音波計器に関するスライドの作成整理。	超音波計器のスライド139枚を作成し、同時に西語解説書も作成した。	作成スライドの中で超音波特性、エコーサウンダー、ネットレコーダーについては、すでに教材として使用されている。この視聴覚教材は学生にとっても判りやすく、有効な手段であると考えるので、出来るだけ資料を集め整理し、教材として準備していく事が望ましい。
〔D〕実習、演習指導	すでに終了。		
〔E〕その他			

61年度 技術移転及び共同作業の進捗状況

(漁業航海計器分野)

大項目	中項目	小項目	進捗状況	備考
1. コース別カリキュラムの作成	1) 各コース別単元数の設定		↑	
	2) 各単元の講義時間の設定		↑	
	3) 実習時間の設定		↑	
	4) 海上訓練計画の作成		↑	
2. 講義用テキスト、マニュアルの作成	1) 航海計器	(1) デビアスコンピュータ用テキスト (2) 電動油圧操舵装置説明図(ヘルシヨウ式) (3) NNS マニュアル (4) レーダーテキスト	↑	
	2) 漁業計器	(1) 魚群探知機 (2) カラー魚群探知機 (3) ネットゾンデ (4) ソナー (5) ドップラー潮流計、ログ	↑	
3. 視覚教材の作成	1) スライド	○ 魚探、ソナー、ネットゾンデ等の実物映像写真の作成、解説。	↑	
	2) V.T.R.	○ 超音波計器の原理、使用手順、実際の使用例、映像等について、VTRを整理、再編集、ナレーションの挿入。	↑	

(註) A.....計画
 B.....実施中
 C.....半ば完了
 D.....ほぼ完了
 E.....完了

目標
 中止

大項目	中項目	小項目	進捗状況					備考	
			A	B	C	D	E		
4. 演習室指導	1) 航海計器	(1) レーダー・ジュミレーター						↑	
		(2) 方向探知機						↑	
		(3) デビアスコープ						↑	
		(4) ジャイロコンパス						↑	
		(5) NNSS						↑	
		(6) 天測計算器						↑	
		(7) SSB、VHF						↑	
		(8) カラーレーダー						↑	
		(9) 航跡プロッター						↑	
		2) 漁業計画	(1) 航海用エコーサウンダー						↑
(2) カラーエコーサウンダー							↑		
(3) ネットゾンデ							↑		
(4) ソナー							↑		
5. 海上訓練	1) 航海術	(1) 電波航法(レーダー、NNSS、方探)						↑	
		(2) 推測航法						↑	
		(3) 操船出入港訓練						↑	
		(4) 沿岸航法						↑	
2) 漁業計器の取扱い		魚群探知機(カラー)、ネットゾンデ等					X	↑	

〔漁業航海計器分野〕

62～63年度 技術移転及び共同作業実施計画

担当専門家：河上 権 夫
カウンタパート：マルセロ・ルセーロ教授

大 項 目	目 標 及 び 方 針	項 目	備 考
<p>[A] カリキュラムの編成助言</p>	<p>漁業航海計器のカリキュラムに関しては、前三年間で骨組は出来上がっていて、計器に関する授業時間は、すでに飽和状態になっている。この為、授業内容を濃くする為、後述する視聴覚教材との併用に重点をおく。 又、最新漁業航海計器に関する情報知識の充実を計る。</p>	<p>[1] カリキュラム充実の為のA/Vソフトのカリキュラム編入。 [2] オメガ、G.P.S等の最新航海計器のカリキュラム編入。</p>	
<p>[B] テキスト、マニュアルの作成</p>	<p>漁業計器のテキスト及びマニュアルに関しては前専門家作成のテキスト、マニュアルの充実を計る。 又、航海計器関係に関しては、新到着機材及び双曲線航法等をカウンタパートと共同で西語訳及びテキストを作成する。</p>	<p>[1] 漁業計器関係 現在作成されているテキストに20枚程度の追加。 [2] 航海計器関係 1) 双曲線航法、NNSS(JRC) 2) ジャイロコンパス、オートパイロット 3) G.P.S</p>	<p>① オメガを主に説明。NNSSはJRCの取説作成。 ② 図を多く取入れて基礎を説明。 ③ システムを簡単に説明。</p>
<p>[C] 視聴覚教材の作成</p>	<p>手持のスライド、トランススフアレンシー、ビデオテープ等の視聴覚ソフトや、計画中のオメガ局F局への研修旅旅行で入手する予定の資料類をカウンタパートと共に西語訳、編集、整理を行ない、授業内容の充実をはかる。 これは学生にとっても判りやすく、短期集中型の本校には有効な手段であると思われる。 テキスト、マニュアルの作成と共に最も力を入れたと思う。</p>	<p>[1] スライド [2] トランススフアレンシー [3] ビデオソフト [4] 掛 図 [5] コンピューターソフト</p>	<p>① 手持600枚より選んでコピー、西語訳必要。 ② 手持40枚より、西語訳及び編集が必要。エコーサウンダー、他。 ③ 航海関係ビデオはメーカー作成の物が多く、西語訳、編集が必要。 ④ オメガ局配置図、ジャイロコンパス、他。 ⑤ プラネタリウム、他。</p>

大 項 目	目 標 及 び 方 針	項 目	備 考
(D) 実習、演習指導	<p>現在練習船での実習が予定されていないので、実習室のみの指導となる。</p> <p>操舵シミュレーターが新しく設置されるので、短期専門家と共に指導予定。</p>	<p>(1) 操舵シミュレーター</p> <p>(2) モデル作成</p>	<p>① 操舵シミュレーター実習。</p> <p>② シンクロモーターモデル、基礎電子モデル他。</p>

〔漁業航海計器分野〕

62年度(4~11月) プロジェクト実施計画内容及び実施状況

担当専門家：河上 橋 夫
カウంటャーパート：マルセロ・ルセーロ教授

大 項 目	重 点 実 施 内 容	実 施 方 法 及 び 実 施 状 況	評 価、問 題 点 及 び コ メ ン ト 等
〔A〕カリキュラムの編成助言	来年度より本格的に運用が開始される最新航海計器(G.P.S.等)に関する情報入手をはかり、カウంటャーパートの知識の充実とカリキュラムへの編入の一助とした。	G.P.S.(全世界測位システム)に関する資料を収集し、テキストを作成、カウంటャーパートに渡した。	まだ、G.P.S.航海に関するラフな西訳テキストもカウంటャーパートに渡したばかりで、カリキュラム上には何も反映されていないが、来年度からは授業にも組み込まれると思われる。
〔B〕講義用教材及びマニュアルの作成	テキストはエコノミーサウズンダー、G.P.S.に關して作成中。 又、マニュアルに關しては、JRCのNNSS(衛星航法)の西訳及び操舵シュミュレーターのマニュアルを完成。	テキスト・マニュアルは図を多用して学生に解りやすい物を作成する事とした。 G.P.S.のテキストに關しては、これに關する本が書かれていないので、メーカーや学会より資料を入手し、独自のものを作成した。	カウంటャーパートにとり、日本やアメリカのメーカーや学会等と繋がりを持つ事で色々な航海漁業計器に關する最新情報や資料が入手出来、いつも最新知識を持っておく事がいかに大事かわかったと思われる。 又、このG.P.S.に關してこれだけの知識と資料を持っている者は、まだこのアムステルダムには少ないと思われる。 マニュアルについては、NNSS航法の西訳の後に英単語省略のスペイン語説明を4ページほど付けた。
〔C〕視覚教材の作成	手持のスライド及びビデオテープより漁業航海計器に關するスライドのコピー作成、及びビデオテープの選択、西訳を行なった。	スライドは手持の航海、航海計器関係の物からこの学校が必要と思われる物を選び、スライドビュープリンターを使用してコピーを作成した。 リーダー航法に關するスライドはあと西訳のみ、ソナーのビデオソフトは編集作業が残っている。	ビデオソフト作成は、作成スタッフが現在、学校紹介ビデオの制作にかかりきりになっているので、教育資料用のビデオ作成が大巾に遅れている。
〔D〕実習、演習指導	操舵シュミュレーターのスイッチ類及び機器の作動方法を指導した。	短期専門家の三宅氏により操舵シュミュレーターの設置も約一週間で終了した。 その後、三宅氏と共にカウంటャーパートに演習指導を行なった。	操舵シュミュレーター設置後、すでに教回学生への実習指導がなされており、学生の方も非常に興味を示しており、好評である。
〔E〕その他			

大 項 目	中 項 目	小 項 目	実 施 状 況					備 考
			A	B	C	D	E	
〔A〕カリキュラムの編成助 言	〔I〕カリキュラム充実の為にオーディオビ ジューアルソフト併用のカリキュラム。 〔II〕オメガ、G.P.S.航法等の最新航海計 器のカリキュラム編入。	a) エコーサウンダー a) 双曲線航法(オメガ)	↑	↑				
			↑	↑				
〔B〕テキスト・マニュアル の作成	〔I〕テキストの作成 (1) 漁業計器 (2) 航海計器関係	b) ジャイロコンパス	↑					
		c) オートバイロット	↑					
		d) G.P.S.航法	↑					
		a) 操舵シュミレーター b) NNSS(JRC)	↑	↑	↑	↑	↑	
〔C〕視聴覚教材の作成	〔I〕マニュアルの作成 (1) 航海計器関係 〔II〕スライド 〔III〕トランススプレジション 〔IV〕ビデオソフト	a) レーダー航法 b) 双曲線航法、他 c) G.P.S.航法	↑	↑	↑			
		a) エコーサウンダー、他 a) スキャニングソナー b) オメガ航法	↑	↑	↑			
			↑					
			↑					

大項目	中項目	小項目	実施状況					備考
			A	B	C	D	E	
[D] 実習、演習指導	[IV] 掛図	a) 双曲線航法チャート						
		b) ジャイロコンパス、他						
	[V] コンピューターソフト							
	[I] 操舵シュミュレーター							
[E] その他	[II] モデル作成	a) 操舵シュミュレーター	↑					
		b) 基礎電子機器モデル	↑					

1986年度 プロジェクト実施計画、実施状況及び評価

〔魚獲物処理分野〕

大項目	重点実施内容	実施方法及び実施状況	評価、問題点及びコメント
(a) カリキュラムの編成助言	魚獲物処理は船上における鮮度保持を最大の目標とするので、カリキュラム内容もこれを目的とする単元を編成する。	魚は本質的に鮮度の面から不安定な食品である事を認識させ、現場に即した適切な取扱いを狙った単元として編成した。	座学中心の抽象的傾向を脱し、鮮度の保持を主眼とした実践的な単元に組み換えられた事は、学生に対する教育効果は大であり、有為なカリキュラムであると評価される。
(b) 講義用教材、マニュアルの作成	学術的なものでなく、現場実務に即した解説書、作業マニュアルを中心とする。	魚獲物処理分野に必須の重要基本用語を収集、解説を加え、重要用語集を完成した。 イカ類の加工処理、乾燥品、燻製品、塩辛等についてマニュアルの見直しを実施した。	従来7国においては組織的な魚獲物処理が実施されおらず、マニュアル、技術用語集をCPと完成した事は、学生に対する教育効果大であったと評価される。
(c) 視聴覚教材の作成	魚獲物処理分野の基本的な対象となる商業的有用魚介類について整理を行う。	7国産有用魚介類の収集、スライド作成、標本写真を通して図鑑の編集を実施した。有用魚介58種に更に更にサンプルを収集、追加、学名のチェック総括を行った。	商業的に有用な魚介類の図版を作成し、種の種類、解説を併せ行った事は学生は勿論、一般消費者に対しても魚に対する認識を与える効果大なりと思料される。
(d) 実習、演習	7国の魚獲物の中で最も一般的に知られているメルルサーサについて、処理の基本を実習する。	メルルサーサ、サバ、ムツ、イカ等を用いて魚製品、乾燥品を主体とする製造作業の指導を実施した。	魚製品の製造実習を通して、水産食品の付加価値は原料の鮮度の良否による事を認識させ得た事は評価される。 CPとパタゴニアの工場視察、研修旅行を実施した事も効果あったものと思われる。

61年度 プロジェクト実施計画内容、実施状況及び最終評価

〔対象協力分野：漁獲物処理〕

大項目	中項目	小項目	進捗状況					備考	
			A	B	C	D	E		
(a) カリキュラムの助言編成	1. 漁獲物処理コースのカリキュラムの基本目標の設定	漁獲物処理は鮮度保持が究極の目標である。漁船は獲る事が第一の目的であるが、それと同様に、漁獲後の処置が大切である。	↑					60年度カリキュラムを踏襲した。	
		魚は品質的に不安定な食品であるという認識をもたせる。	↑						
		2. 単元の範囲の設定	学術的に片寄らず、実際的に広く、浅く範囲を設定する。	↑					
		3. 各単元の内容、レベル	鮮度保持、即ち、商品価値の維持を目標として範囲を限定する。	↑					
		4. 各単元の目標確認	平易かつ実務的知識。	↑					
(b) 講義用教材、マニュアルの作成	5. 各単元の評価	各単元毎の目標を確認し、最終目標はすべて鮮度保持であること。	↑					乙種1・2等船長用60年度テキストを踏襲 "Procesamiento de calamar" "Fundamentos para el tratamiento de la captura a bordo de barco pesquero"	
		単元の要点をまとめる。(テスト等)	↑						
		1. 教科テキストの編集	現行テキストの修正、補正、再プリント	↑					
		2. 水産船仕立マニュアル	C/P用甲殻、軟体類の参考書	↑					
			日本以西操業船仕立方式	↑					

大 項 目	中 項 目	小 項 目	進 捗 状 況					備 考	
			A	B	C	D	E		
(c) 視聴覚教材の作成	3. 冷凍船仕立マニュアル	日本トロール協会、水産高校教科書に準拠。						↑	“ manual de manipuleo y tratamientos del pescado a boro ”
	4. 魚種別、規格仕立要領	PESPASA社仕立要領						↑	“ manual de tratamientos pescado segun suespecies y tamaño ”
	5. 塩蔵法マニュアル	従来のテキストに準拠、挿画の更新						↑	
	6. 乾燥法マニュアル	従来のテキストに準拠						↑	
	7. 魚体々制図	硬骨魚の体制図						↑	
	8. 甲殻類体制図	くるまえび						↑	
	9. 軟体類体制図	するめいか						↑	
	10. 節約テクニカルタームム集	特に漁獲物処理分野に関する基本的用語						↑	語彙の収集完了、編集
	11. ア国産有用魚介類の図鑑							↑	
	1. スライド		ア国産有用魚類					↑	} ア国産有用魚介類として撮影済み。
	(1) 魚類スライド		アルゼンチン赤エビ					↑	
(2) 甲殻類スライド		アルゼンチンイレッタス					↑		
(3) 軟体類スライド		ブラクトン、ゼリミート、カビ					↑		
(4) 細菌学スライド		物理的、細菌的魚体の損傷					↑		
(5) 魚体損傷スライド							↑	官能的鮮度判定をも兼ねる。	
2. トランスポジションシア (オーバーヘッドプロジェクト クター)							↑	ア国主要魚種10種(メルルーサ、イカ、他)についてトランスポジションシア作成。	
(1) 魚類生理、生態関連							↑		

大項目	中項目	小項目	進捗状況					備考
			A	B	C	D	E	
(d) 演習、実習	3. VTR							メル他数種の魚について、ビデオ集録済み。
	(1) 魚体処理							
	(2) 仕立作業(氷蔵船)							
	(3) 仕立作業(冷凍船)							
	(4) 官能的鮮度判定							VTRに替え、スライドにより作成(魚体損傷スライド)
	(5) 魚市場、水揚							
	(6) 冷凍工場フイレー作業							
	(7) 甲殻・軟体類の処理							Pespassa pto deseado 工場におけるエビ処理収録
(8) 冷凍魚		日本冷凍魚協会編: "冷凍魚" の西話アフレコ						西語訳、アフレコ完了 "Pescado congelado"
1. バーダママンン作業		原料の選定、鮮度の査定						メルルーサ 40kgにて試運転を実施
メルルーサ、フイレーブロック		原料秤量マシンへのインプリント						スキンスライスフイレー作成、歩留査定実施
2. コンタクトフレーザー実習		パン立(インナーフ)コンタクト凍結						パン立、凍結は実施出来ず。(数量の問題)
		製品の歩留査定						
		サブ、イワシの凍結						
		原料選定、パン立、凍結進捗状況のチェック、パン抜、グレース、パッキング						

大項目	中項目	小項目	進捗状況					備考	
			A	B	C	D	E		
	3. エアプラスチック実習	ラウンド魚の凍結 魚種の選定、仕立（バン立、鱈立） 背データ 凍結中の魚体温度の変化	↑						
	4. 凍製機による各種凍製品の試作	太物（ブリ、カツオ、等）の単体凍結 オガクズによる凍製 凍液による凍製	↑	↑	↑	↑	↑	↑	メルルーサにより実施 ペヘレイ、アンチョアチバンコ、アジ、サバについて実施

MINUTA DEL CUARTO COMITE CONJUNTO DEL PROYECTO DE COOPERACION TECNICA DE

LA ESCUELA NACIONAL DE PESCA

Conforme al "Record of Discussions" que se firmó el 9 de diciembre de 1983 en Buenos Aires, se está llevando a la práctica el Proyecto de Cooperación Técnica de la Escuela Nacional de Pesca en Argentina, con el objeto de elevar el nivel de educación de la pesca marítima en la Escuela Nacional de Pesca y de contribuir así al desarrollo de la pesca marítima en la República Argentina.

Durante la permanencia de la misión japonesa organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) y encabezada por el Ing. Yukio ONDA, Presidente del Japan Sea-Farming Association (ex-Subsecretario de Pesca del Japón), el Cuarto Comité se realizó conforme al artículo número 10 del "Record of Discussions" el 3 de diciembre de 1987 en la Escuela Nacional de Pesca de Mar del Plata.

Los representantes japoneses y argentinos, intercambiaron opiniones sobre diversos temas tales como la situación de ejecución del Proyecto desde noviembre de 1986 hasta hoy, y como resultado de la deliberación redactaron la minuta adjunta.

Mar del Plata. 3 de diciembre de 1987.

.....
(Parte Japonesa)
Ing. YUKICHI KIMURA
Jefe de Asesores Japoneses
del Proyecto de la Escuela
Nacional de Pesca

.....
(Parte Argentina)
Capitán de Navío (RE)
JUSTO A. I. ORTIZ
Director de la Escuela
Nacional de Pesca
En representación del
Presidente del Comité
Conjunto, Señor Contra-
almirante Dn. Emilio
Indalecio NIGOUL

CUARTO COMITE CONJUNTO JAPONES - ARGENTINO

MAR DEL PLATA. 2 de diciembre de 1987

I. INTRODUCCION

Conforme al "Record of Discussions" (Documento de Discusiones), que se firmó el 9 de diciembre de 1983 en Buenos Aires, se ha llevado a la práctica desde el primero de abril de 1984 el Proyecto de Cooperación Técnica de la Escuela Nacional de Pesca en Argentina (de aquí en adelante el Proyecto), con el objetivo de elevar el nivel de educación de la pesca marítima en la Escuela Nacional de Pesca y de contribuir al desarrollo de la pesca marítima en la República Argentina.

La situación sobre la ejecución del Proyecto en el año 1984 (de aquí en adelante significa el año fiscal japonés: del primero de abril al 31 de marzo) que se considera como el período preparatorio se resumió ya para presentar al Primer Comité Conjunto, que se celebró el 18 de marzo de 1985.

La situación sobre la ejecución del Proyecto en el año 1985 se resumió ya para presentar al Segundo Comité Conjunto, que se celebró el 17 de abril de 1986.

La situación sobre la ejecución del Proyecto desde abril hasta octubre de 1986, se resumió para presentar al Tercer Comité Conjunto que se celebró el 31 de octubre de 1986. En consecuencia se omiten en este texto.

Este material se preparó para ser presentado al Cuarto Comité Conjunto con los siguientes objetivos:

- (1) Resumir la situación de la ejecución del Proyecto desde noviembre de 1986 hasta marzo de 1987.
- (2) Resumir la situación de la ejecución del Proyecto desde abril de 1987 hasta el presente.
- (3) Presentar el resumen de la ejecución del Proyecto para el año 1988 en adelante.

II. SOBRE EL RESULTADO DE EJECUCION DEL PROYECTO DE COOPERACION TECNICA DEL AÑO 1986 (noviembre hasta marzo de 1987).

1) Resumen del plan de ejecución de 1986

En el período preparatorio del Proyecto de 1984, los representantes japoneses y argentinos del Proyecto, después de deliberar, prepararon el plan de transferencia de tecnología y actividades conjuntas de 1985-1986 (en adelante se denomina el plan 1985-1986). Este plan como se muestra en documentos adjuntos se aprobó en el Primer Comité Conjunto, y consta de cuatro artículos principales y se realiza para elevar el nivel de educación de la pesca. Estos artículos son comunes en los tres campos de cooperación, es decir, artes de pesca, tecnología pesquera y equipos de pesca y navegación.

- a) Orientación a los contrapartes en mejorar el programa de estudios (currículum), en cada campo.
- b) Redacción y preparación de diversos materiales educativos, como textos, apuntes, manuales, etc., en cada campo.
- c) Redacción y preparación de diversos materiales audiovisuales en cada campo.
- d) Orientación a los contrapartes en diversas prácticas (marítimas y terrestres) y ensayos, en cada campo.

En todos los campos, esos artículos principales constan de otros artículos que se derivan de ellos y todos se cumplieron de acuerdo al plan durante los años 1985-1986.

(2) Situación en la ejecución del Proyecto

(A) Situación referente a la transferencia de tecnología y actividades conjuntas según los campos de cooperación.

Se evaluó la situación de ejecución durante el año 1985 en el plan de 1985-1986 en el Segundo Comité Conjunto que se celebró el 17 de abril, y la situación de ejecución durante el período comprendido entre abril y octubre del año 1986 fue evaluada en el Tercer Comité Conjunto celebrado el 31 de octubre de 1986.

La situación general desde noviembre de 1986 hasta marzo de 1987 en el plan de 1985-1986 se muestra en las tablas de ejecución y sus comentarios adjuntos que fueron redactados por los representantes japoneses y argentinos del Proyecto.

En este Comité se evaluó la situación de ejecución basándose en esas tablas y sus comentarios. Como resultado se confirmó al final que se concuerda con la opinión sobre la evaluación realizada entre japoneses y argentinos.

(B) Envío de Expertos

En cuanto a los expertos de largo plazo, cinco personas que han sido enviadas en 1984 se han dedicado a la ejecución del Proyecto hasta marzo de 1987.

Al cumplir su misión, cuatro de esos expertos han retornado a su país en marzo de 1987 y a su vez fueron enviadas las siguientes tres personas. Además el campo de artes de pesca seguirá a cargo del experto Zenjiro INOMOTO hasta marzo de 1989.

	Hasta marzo de 1987	Desde abril de 1987 en adelante
Jefe de la Misión Japonesa	Keishiro MORI (22-10-84 al 30-3-87)	Yukichi KIMURA (6-3-87 al 31-3-89)
Coordinador	Kiyofumi NAKAUCHI (23-4-84 al 31-3-87)	Satoshi CHIKAMI (10-3-87 al 31-3-89)
Artes de Pesca	Zenjiro INOMOTO (11-6-84 al	Zenjiro INOMOTO 31-3-89)
Equipos de Pesca y Navegación	Toshimasa IUCHI (6-8-84 al 31-3-87)	Tateo KAWAKAMI (15-3-87 al 31-3-89)
Tecnología Pesquera	Tetsuaki KODAMA (11-6-84 al 31-3-87)	-----

El experto de corto plazo que fué enviado desde noviembre de 1986 hasta marzo de 1987 fué:

Kunio AMAOKA - Colección y compaginación de datos y materiales de peces y mariscos útiles. (4-11-86 al 30-11-86)

(C) Entrenamiento técnico y observación de contrapartes en Japón.

Las contrapartes que realizaron el entrenamiento técnico u observación en Japón desde noviembre de 1986 hasta marzo de 1987 se detallan a continuación:

(a) Adiestramiento en la utilización de equipos, accesorios y materiales para la elaboración de audiovisuales.

Héctor A. HUGUENET 22-1-87 al 5-3-87

(b) Adiestramiento en máquinas de buques de instrucción pesquera y otros equipos relacionados.

Justo Pastor LEON 22-1-87 al 15-2-87

(D) Abastecimiento de equipos

Referente al envío de los equipos y materiales de Cooperación Técnica para el año 1986 por barco y por vía aérea, han llegado a la Escuela en su totalidad hasta marzo de 1987.

(E) Sistema de Cooperación de ejecución del Proyecto de la parte Argentina

(a) Asistencia de contrapartes argentinas

Las contrapartes que asisten a los integrantes de la misión japonesa y a los expertos en el presente periodo (noviembre de 1986 a marzo de 1987) son los siguientes:

(a) Justo a. ORTIZ	Director
(b) Alfonso D. GIAVEDONI	Subdirector y Jefe Dep. Enseñanza
(c) Luis MONTE,	Jefe Dep. General
(d) Hugo H. BARBARINO	Jefe Dep. Administración
(e) Diego MAQUI	Prof. Artes de Pesca
(f) Yves M. GHYS	Prof. Tecnología Pesquera
(g) Marcelo LUCERO	Prof. Navegación y Maniobra
(h) Horacio ESPINOSA	Cap. Buque de Instrucción
(i) Justo P. LEON	Conductor de Máquinas del Buque de Instrucción y Máquinas del Taller
(j) Héctor HUGUENET	Encargado de los Gabinetes y Equipos Audiovisuales
(k) Salvador PETELIN	Conductor de Máquinas del Buque de Instrucción
(l) Héctor MENDONCA	Ayudante de Equipos Audiovi- suales

(b) Presupuesto del Proyecto

En 1986, la parte argentina ha procurado asumir los gastos necesarios para la ejecución del Proyecto, y no se han presentado inconvenientes en su ejecución.

(c) Medidas que toma la parte argentina

Los artículos del "Record of Discussions" relacionados con las medidas que toma la parte argentina se muestran como sigue:

- 1- Artículo 11-2.
- 2- Artículo V-1 y 2.
- 3- Artículo VI-1-(1) y VI-2-(1)-(3)

En el presente período la parte argentina ha hecho esfuerzos importantes para concretar las medidas mencionadas dentro de los límites del presupuesto. Por consiguiente no hay objeciones que formular en la ejecución de dichas medidas.

III. SOBRE EL RESULTADO DE EJECUCION DEL PROYECTO DE COOPERACION TECNICA DEL AÑO 1987 (DESDE ABRIL A NOVIEMBRE DE 1987)

Referente a los propósitos básicos sobre la ejecución del cuarto año de los cinco de ejecución conjunta de este Proyecto, se obtuvo el acuerdo entre japoneses y argentinos en la deliberación del Tercer Comité Conjunto que se realizó el 31 de octubre de 1986.

En los comienzos del año 1987, conforme a los propósitos básicos acordados en el Tercer Comité Conjunto, los representantes japoneses y argentinos del Proyecto después de deliberar prepararon el plan de transferencia de tecnología y actividades conjuntas (en adelante se denomina el plan 1987 - 1988).

El siguiente plan de ejecución del año 1987 y la situación de ejecución han sido preparados en base al plan 1987-1988.

(1) Resumen del plan de ejecución de 1987

(A) Campos de Cooperación

Referente a la tecnología pesquera, uno de los tres campos de cooperación, a fines de marzo de 1987 se ha finalizado la transferencia de tecnología y las actividades conjuntas correspondientes a la materia de este campo conforme al acuerdo obtenido en el Tercer Comité Conjunto.

El plan de ejecución de 1987 en adelante ha sido elaborado para los campos de artes de pesca y de equipos de pesca y navegación.

(B) Propósitos básicos referentes a la elaboración del plan de ejecución

Se ha elaborado el plan de ejecución para completar la orientación de artes de pesca que no se han difundido todavía en Argentina, entrenamiento a bordo del buque de instrucción LUISITO y los materiales de enseñanza audiovisual relacionados con la pesca.

Además, en el campo de Equipos de Pesca y Navegación, se ha preparado el plan de ejecución para completar la orientación de tecnología y materiales de enseñanza audiovisual sobre nuevos equipos tales como el equipo de adiestramiento de timoneros, etc. (equipos abastecidos desde el año 1986 en adelante).

El plan de ejecución de 1987 en adelante también se realizará en base a las continuas ejecuciones de 1984 al 1986. Por lo tanto, las medidas de ejecución se realizarán siguiendo los métodos utilizados hasta este momento.

Es decir, los artículos principales de ejecución son:

- I) Consejos para componer los programas.
- II) Preparación de textos y manuales.
- III) Preparación de los materiales audiovisuales para enseñanza.
- IV) Orientación sobre prácticas y ensayos.

En todos los campos esos artículos constan de otros artículos que se derivan de ellos.

(2) Situación de ejecución de 1987

(A) Situación de ejecución sobre la transferencia de tecnología y actividades conjuntas según los campos de cooperación:

La situación de ejecución general desde abril de 1987 en adelante, se muestra en las tablas de ejecución y sus comentarios adjuntos que fueron redactados por los representantes japoneses y argentinos del Proyecto.

(C) Entrenamiento técnico y observación de contrapartes de Japón

Las contrapartes que realizaron el entrenamiento técnico u observación en Japón en el año 1987 se detallan a continuación:

- (a) Artes de Pesca Diego R. MAQUI (16-7-87 al 2-8-87)
- (b) Observación de Educación Pesquera Manuel R. LAMAS (3-8-87 al 16-8-87)

Las contrapartes que se espera que realicen el entrenamiento técnico u observación en Japón por el período que resta del año 1987 se detalla a continuación:

- (a) Adiestramiento en la educación audiovisual
Rodolfo O. BAUDINO (Aproximadamente 50 días a partir de fines de enero de 1988)
- (b) Equipos de Pesca y Navegación
Marcelo R. LUCERO (Aproximadamente un mes a partir de fines de enero de 1988)

(D) Abastecimiento de equipos

Actualmente en JICA se están realizando los trámites para enviar los equipos y diversos materiales de cooperación técnica para el año 1987.

Se supone que lo remitido por vía aérea llegará a la Escuela aproximadamente en enero de 1988; lo enviado por barco por el primer y segundo pedido llegará entre febrero y marzo, y entre abril y mayo de 1988 respectivamente.

(E) Sistema de Cooperación de ejecución del Proyecto de la parte argentina.

- (a) Asistencia de contrapartes argentinas

Las contrapartes argentinas que asisten a los integrantes de la misión japonesa y a los expertos en el presente período son los siguientes:

- (a) Justo Alberto ORTIZ Director
- (b) Alfonso D. GIAVEDONI Subdirector y Jefe Dep. Enseñanza

(c) Luis MONTE	Jefe Dep. General
(d) Hugo H. BARBARINO	Jefe Dep. Administración
(e) Diego R. MAQUI	Prof. Artes de Pesca
(f) Marcelo R. LUCERO	Prof. Navegación y Maniobra
(g) Horacio ESPINOSA	Capitán del Buque de Instrucción
(h) Justo P. LEON	Jefe del Taller de Máquinas
(i) Héctor A. HUGUENET	Encargado de los Gabinetes y Equipos Audiovisuales
(j) Rodolfo O. BAUDINO	Ayudante de los Gabinetes y Equipos Audiovisuales
(k) Domingo R. BRIZUELA	Conductor de Máquinas del Buque de Instrucción

Además de éstos, colaboran personal de servicios y administrativos, y se evalúa el esfuerzo de la parte argentina referente a la asistencia prestada para cumplir las disposiciones del Record of Discussions.

(b) Presupuesto del Proyecto

En 1987, la parte argentina ha procurado asumir los gastos necesarios para la ejecución del Proyecto, en algunos casos con ciertas limitaciones presupuestarias para la Administración de la Escuela, pero no se han presentado inconvenientes en su ejecución.

Además la parte argentina, mediante el Decreto Presidencial Nro. 1238/87, ha conseguido incrementar el presupuesto en gastos de personal, mediante el nombramiento de personal docente, administrativo y de servicios.

(C) Medidas que toma la parte argentina

Los artículos del R/D relacionados con las medidas que toma la parte argentina se muestran de la manera siguiente:

1. Artículo II-2
2. Artículo V-1 y 2
3. Artículo VI-1-(1) y VI-2-(1)-(3)

En el presente periodo la parte argentina ha hecho esfuerzos importantes para concretar las medidas mencionadas dentro de los límites del presupuesto limitado. Por consiguiente no hay objeción que formular en la ejecución de dichas medidas.

IV. EJECUCION DEL PROYECTO EN EL AÑO 1988

(1) Resumen del plan de ejecución en el año 1988

Se ejecuta el Proyecto en el año 1988 basándose en el mismo plan de 1987-1988 realizándose consecutivamente. El objetivo más importante del año 1988 es terminar diversos artículos que no se ejecutaron o completaron durante el año 1987, con la colaboración de la parte argentina y japonesa.

(2) Comentario de la parte argentina referente a la ejecución del Proyecto en 1988

En cuanto a la ejecución del Proyecto en el año 1988, la parte argentina solicita a la parte japonesa provisionalmente lo siguiente:

(A) Sobre el envío de expertos de corto plazo

(a) Expertos pendientes que se solicitó se enviaran en 1987, y aún no concurren.

(b) Experto para guiar la mejor utilización del microcomputador, en técnicas de pesca y para la administración de la Escuela Nacional de Pesca.

(c) Experto para guiar el mantenimiento e inspección de los aparatos audiovisuales.

(d) Experto para guiar en la elaboración de materiales audiovisuales

(B) Capacitación de contrapartes en Japón

(a) Práctica en microcomputador y procesador de palabras para elaboración de materiales didácticos.

(b) Orientación u observación sobre métodos de programación en estudios pesqueros.

(c) Práctica de enseñanza en equipos audiovisuales.

(d) Observación de administración para la educación pesquera.

(C) Abastecimiento de equipos

Es conveniente solicitar lo antes posible la provision de los equipos y materiales que se deberan enviar en 1988, dando prioridad por via aerea a aquellos equipos o materiales que se necesitan con mayor urgencia.

V. ARTICULOS ESPECIALES

(1) La parte japonesa aprecia la colaboracion que ha brindado la parte argentina hasta el momento, al ejercer la administracion del Proyecto, y espera de la misma que se continuen tomando todas las medidas correspondientes de acuerdo al "Record of Discussions".

(2) Respetando plenamente el contenido de la nota entregada por el Sr. Yukio ONDA, Jefe de la Mision Japonesa de JICA, al Sr. Director de la Escuela Capitan Justo A. ORTIZ, ambas partes, la argentina y la japonesa, esperan que se lleven a cabo totalmente, todos los articulos en ejecucion, con una adecuada colaboracion en el ultimo año del Proyecto (1988).

A su vez, se desea un mayor esfuerzo por ambas partes para la continuidad de la elevacion del nivel de educacion, aun sin la presencia de los expertos japoneses al concluir el presente convenio.

ASISTENTES AL CUARTO COMITE CONJUNTO

(1) La parte argentina:

Justo A. I. ORTIZ	Director de la Escuela
Alfonso D. GIAVEDONI	Subdirector y Jefe Dep. Enseñanza
Luis MONTE	Jefe Dep. General
Hugo H. BARBARINO	Jefe Dep. Administracion
Juan A. ROMANELLA	Division Escuela de la Marina Mercante
Diego. R. MAQUI	Prof. Artes de Pesca
Marcelo R. LUCERO	Prof. Navegacion y Maniobra
Justo P. LEON	Conductor de Maquinas del Buque de Instruccion y Maquinas del Taller
Hector A. HUGUENET	Encargado de los Gabinetes y Equipos Audiovisuales.

(2) La parte japonesa:

Yukichi KIMURA	Jefe de la Mision Japonesa
Satoshi CHIKAMI	Coordinador
Zenjiro INOMOTO	Experto Artes de Pesca
Tateo KAWAKAMI	Experto Equipos de Navegacion y Pesca
Toshiyuki EZUKA	Funcionario, Oficina Argentina en Buenos Aires, JICA
Susumu NISHIO	Primer Secretario, Embajada del Japon (Observador)
Yukio ONDA	Jefe de la Mision de JICA (Observador)
Hideo KATO	Miembro de la Mision de JICA (Observador)
Akira MAEKAWA	Miembro de la Mision de JICA (Observador)

PLANES, SITUACIONES, EVALUACIONES DE EJECUCION / AÑO 1986

Campo: TECNOLOGIA PESQUERA
 Asesor: TEISUAKI KODAMA
 Contraparte: PROF. YVES M. GHYS

PRINCIPIO	PUNTOS IMPORTANTES	EJECUCION	EVALUACION Y COMENTARIO
<p>a) Redacción y Sugerencias para la enseñanza.</p>	<p>El concepto principal está dirigido a "conocer cómo se debe mantener la frescura del pescado a bordo": el contenido de la enseñanza está relacionado totalmente con los motivos que harán cumplir el concepto del mantenimiento de la frescura o sostenimiento del valor comercial.</p>	<p>Se debe tener el pleno conocimiento de que el pescado es un alimento fácilmente perecedero. Se redactaron programas de estudio desde el punto de vista de utilización práctica a bordo, y no desde el punto puramente teórico-científico.</p>	<p>El programa de estudios de 1986 se ha seguido la misma línea fundamental que en 1985. Es decir que se evita la tendencia de formas abstractas y se formuló con una tendencia práctica. Con ello se logró que los alumnos pudieran entender con mayor facilidad los temas y a su vez que la materia tenga mayor aceptación.</p>
<p>b) Preparación del material para enseñanza y manuales.</p>	<p>Los materiales para enseñanza y manuales deben ser preparados no de alta teoría, sino con fines más prácticos.</p>	<p>Se han seleccionado vocabularios básicos indispensables en el campo de la Tecnología Pesquera y completado con datos explicativos y se ha preparado un glosario técnico. Se han realizado correcciones de los manuales sobre procesamiento de calamar y sobre productos desecados, ahumados y salados</p>	<p>Hasta el presente en Argentina no existía una tecnología pesquera desde el punto de vista de su organización y estimamos que el glosario técnico y los manuales representarán un valioso aporte para los alumnos y contrapartes</p>
<p>c) Preparación del material audiovisual para enseñanza.</p>	<p>Estamos elaborando material relacionado con especies de peces, crustáceos y moluscos, y que se consideren de mayor importancia comercial en Argentina.</p>	<p>Se seleccionaron los pescados comercialmente más importantes y sobre éstas especies se sacaron fotografías. Se hizo la identificación y los dibujos de "Peces Argentinos Más Importantes Comercialmente". A las 58 especies de peces comercialmente importantes, se han introducido más ejemplares y se han realizado revisiones de los nombres científicos de dichos peces.</p>	<p>La edición del Album Fotográfico de las principales especies comercialmente importantes con la identificación y clasificación de cada especie, considero que aumentará el interés por parte de los alumnos y del público consumidor.</p>

<p>d) Práctica y ensayo.</p>	<p>Práctica del primer paso de preparación, utilizando como materia prima la merluza, que es la especie más popular del país.</p>	<p>Se había hecho la preparación de pescado ahumado, utilizando para ello pescado común (merluza, caballa y merluza negra).</p>	<p>Por medio de la preparación de pescado ahumado, se entendió: que el valor añadido a los productos del mar depende exclusivamente de la frescura de la materia prima. Considero que ha sido provechosa la visita a las fábricas de la Patagonia y los viajes de estudio realizados con la contraparte.</p>
------------------------------	---	---	--

I / DE TRASPASO DE TECNOLOGIA

TECNOLOGIA PESQUERA

PRINCIPIO	ARTICULOS	DETALLES	SITUACION DE AVANCE					NOTAS
			A	B	C	D	E	
1) Redacción y consejo de enseñanza	1. Establecimiento del objetivo fundamental para el plan de estudio sobre el curso de tecnología pesquera	<p>* El concepto principal de este campo está en el mantenimiento de la frescura del pescado.</p> <p>Aunque los buques pesqueros deben poner la más alta prioridad sobre la captura de los peces, es también importante el tratamiento adecuado de la captura inmediatamente después de la captura</p> <p>* Dar el conocimiento a los alumnos de que el pescado es un alimento fácilmente perecedero.</p>						<p>* El programa de 1986 ha seguido el mismo de 1985</p> <p>A: Teniendo la intención B: Trabajando C: Medio terminado D: Casi terminado E: Terminado</p>
	2. Elaboración de las bolillas	<p>* Los materiales para enseñanza deben elaborarse y ser preparados no de alta teoría sino con fines más prácticos</p> <p>* Las bolillas abarcan la no-ción de mantener la frescura y el valor añadido de peces</p>						
	3. Elaboración del nivel y contenido de cada bolilla	<p>* Fácil para estudiar y más práctica</p>						
	4. Confirmación del objeto sobre cada bolilla	<p>* Confirmar el objeto del contenido de cada bolilla y reconfirmar que el objeto fundamental es el "mantenimiento de la frescura"</p>						

PLAN DE TRASPASO DE TECNOLOGIA

TECNOLOGIA PESQUERA

PRINCIPIO	ARTICULOS	DETALLES	SITUACION DE AVANCE					NOTAS	
			A	B	C	D	E		
2) Preparación de material para enseñanza y manuales	5. Apreciación de cada bolilla	* Resumir los puntos más importantes de cada bolilla (con exámen, etc.)							
	1. Redacción de textos	* Corrección y recopia de textos corrientes							
		* Datos y referencias sobre cefalópodos y crustáceos							
	2. Manual de procesamiento de pescado a bordo de barco fresco	* Manual de buques pesqueros japoneses en el Mar de la China							Seguido el mismo texto de P.P.1 y P.P.2 de 1985
	3. Manual de procesamiento de pescado a bordo de barco congelador	* En base al manual de "Japanese Deepsea Trawlers Association" y texto de "Fishery High School in Japar"							"Procesamiento de Calamar"
	4. Guía de preparación según cada especie y tipo de pescado	* En base al manual de a bordo de buques pertenecientes a la empresa pesquera PESPASA							"Fundamentos Para el Tratamiento de la Captura a Bordo de Barco Fresquero"
	5. Manual de salazón de pescado	* En base al manual existente se renovaron dibujos							Manual de Manipuleo y Tratamiento del Pescaço a Bordo.
	6. Manual de secamiento de pescado	* En base al manual existente							
	7. Dibujos de morfología del pez	* Dibujos óseos del pez							
	8. Dibujos de morfología de crustáceos	* Dibujos de langostino como modelo							
9. Dibujos de morfología de cefalópodos	* Dibujos de calamar								
10. Condensación de términos técnicos para el curso de tecnología pesquera	* Colección de los términos usados frecuentemente en el campo de tecnología pesquera								Se ha compilado. Este es sumamente importante ya que en Argentina se carece de un glosario técnico. Se incluirán dibujos y diagramas ilustrativos que faciliten la interpretación del texto.

Plan de Traspaso de Tecnología

TECNOLOGIA PESQUERA

PRINCIPIO	ARTICULOS	DETALLES	SITUACION DE AVANCE					NOTAS
			A	B	C	D	E	
3) Preparación del material audio visual para enseñanza	11. Dibujos de los pescados y mariscos más importantes comercialmente en Argentina	* Enfoque de las especies del punto de vista comercial						Hecho el borrador. En noviembre llegará un especialista que hará la revisión final
	1. Diapositivas							
	a) Referentes a ictiología	* Peces importantes comercialmente en Argentina						
	b) Referente a crustáceos	* Langostino (Pleoticus muellei) y camarón (Artemesia ioninaris)						
	c) Referente a moluscos	* Calamar (Illex argentina)						
	d) Referente a bacteriología	* Plancton, moho, etc.						
	e) Daños del pez	* Daño físico y bacteriológico						Sirve también como organoléptico.
	2. Transparencias (Over Head Projector)							
	a) Referente a anatomía							
	3. V.I.R.							
a) Varias demostraciones de preparación del pescado								
b) Demostración de elaboración a bordo de barco fresquero							La parte argentina completara esta tarea	
c) Demostración de elaboración de pescado a bordo de barco congelador							" " " "	
d) Organoléptico							Se cambió de audio visual a diapositivos (Daño de peces) y ya está preparado.	

PLAN DE TRASPASO DE TECNOLOGIA

TECNOLOGIA PESQUERA

PRINCIPIO	ARTICULOS	DETALLES	SITUACION DE AVANCE					NOTAS
			A	B	C	D	E	
4) Práctica y ensayo	e) Operación de desembarco de pescado en puerto pesquero							
	f) Obra de elaboración de filet de merluza en frigoríficos							
	g) Demostración de elaboración de langostino y camarón							Se han hecho videos en fábricas de pescado
	h) Pescado congelado							Doblado al español una película japonesa
	1. Operación de Baadermaschine Filet de merluza y fish - block							Se ha hecho práctica con la especie merluza.
	2. Operación de congelación	Práctica de congelación rápida de caballa y anchoíta						Se ha practicado con agua potable.
	3. Operación de túnel (aire forzado)	Congelación de pez entero						
	4. Operación de ahumado	Con aserrín Con líquido de humo						Se hizo de filet de merluza Se hizo de pejerrey, anchoa, de banco y caballa.

PLANES, SITUACIONES, EVALUACIONES DE LA EJECUCION EN EL AÑO 1986

Campo: EQUIPOS DE NAVEGACION Y PESCA
 Asesor: TOSHIMASA IUCHI
 Contraparte: Prof. MARCELO LUCERO

PRINCIPIO	PUNTOS IMPORTANTES	DETALLE DE LAS EJECUCIONES	EVALUACIONES Y COMENTARIOS
1. Componer el programa de estudio		Intercambio de opiniones con la contraparte sobre los niveles y objetivos del estudio de equipos electrónicos en los cursos.	El programa no necesita cambios para el año 1986, pero a partir del año 1987 se deben agregar los nuevos equipos de la Escuela: radar color, video ploter, etc.
2. Redactar el apunte o manual para estudio	Finalizado		La operación y mantenimiento de los equipos está clara para la contraparte. Se debe preparar un texto sobre el uso de los últimos equipos llegados en 1986 (Ploter color, Omega, etc.).
3. Redactar los datos para la enseñanza audiovisual	Fabricación de diapositivas sobre equipos de ondas ultrasónicas.	Se hicieron 139 diapositivas con explicación en español.	Ya se han utilizado en el aula. Estas imágenes resultan muy efectivas y fáciles de entender para los alumnos. Se recomienda continuar recopilando diapositivas de la misma forma.
4. Orientar en el aula de equipos	Finalizado		
5. Otros			

PRINCIPIO	ARTICULOS	DETALLES	SITUACION DE AVANCE					NOTAS
			A	B	C	D	E	
4. Orientar en el aula de equipos	1) Equipos de navegacion	(1) Radar simulador	↑	↑	↑	↑	↑	
		(2) Radiogoniometro	↑	↑	↑	↑	↑	
		(3) Deviascope	↑	↑	↑	↑	↑	
		(4) Girocompas	↑	↑	↑	↑	↑	
		(5) N.N.S.S.	↑	↑	↑	↑	↑	
		(6) Calculador para navegacion astron6mica	↑	↑	↑	↑	↑	
		(7) S.S.B. , V.H.F.	↑	↑	↑	↑	↑	
		(8) Radar color	↑	↑	↑	↑	↑	
		(9) Video ploter	↑	↑	↑	↑	↑	
5. Practica en el mar	1) Navegacion	(1) Ecosonda	↑	↑	↑	↑	↑	A: Teniendo la intencion
		(2) Ecosonda color	↑	↑	↑	↑	↑	B: Trabajando
		(3) Ecosonda de red	↑	↑	↑	↑	↑	C: Medio terminado
		(4) Sonar	↑	↑	↑	↑	↑	D: Casi terminado
2) Pesca	2) Pesca	* Como usar los equipos de pesca	X					E: Terminado
			↑	↑	↑	↑	↑	X Suspendido

PLAN DE TRASPASO DE TECNOLOGIA Y TRABAJO COOPERATIVO CON CONTRAPARTE
(Plan para 1987 - 1988)

Campo: EQUIPOS DE NAVEGACION Y PESCA
Asesor: TATEO KAWAKAMI
Contraparte: Prof. MARCELO LUCERO.

PRINCIPIO	OBJETO Y LINEA DE CONDUCTA	ARTICULO Y DETALLE	NOTA
(A) Consejos para componer los programas	<p>(1) Incluir los nuevos equipos electrónicos de navegación que llegan, dentro de los programas de estudio</p> <p>(2) Enriquecer las lecciones con mayor uso de las ayudas audiovisuales simultáneas.</p> <p>(3) Agregar los últimos conocimientos sobre los más modernos equipos de navegación y pesca.</p>	<p><1> Agregar nuevos temas de audiovisuales</p> <p><2> Agregar sistema de posición electrónica GPS (Satélites Estacionarios).</p>	
(B) Preparación de los textos y manuales	<p>(1) Ampliar los apuntes existentes sobre equipos electrónicos para pesca. Además, traducir y preparar apuntes en castellano con la contraparte, sobre equipos electrónicos para navegación.</p>	<p><1> Extensión del manual sobre equipos electrónicos para pesca.</p> <p><2> Equipos electrónicos de navegación (1) Sistemas hiperbólicos Omega (2) Sistema NNSS (3) Girocompás y Autotimoneo (4) Sistema GPS</p>	<p>(1) Principios del sistema Omega.</p> <p>(2) Teoría del satélite (NNSS) y explicación modelo JRC.</p> <p>(3) Explicación general (Incluye figuras y fotografías).</p> <p>(4) Explicación del nuevo sistema GPS de satélites geostacionarios.</p>

<p>(C) Preparación de los materiales audiovisuales para enseñanza</p>	<p>Para enriquecer los contenidos de las lecciones. concentrar los esfuerzos en traducir, compilar y copiar los materiales audiovisuales durante este período.</p>	<p><1> Diapositivas <2> Transparencias <3> Cintas de video <4> Láminas</p>	<p>(1) Organización y selección entre aproximadamente 600 dispositivos sobre equipos electrónicos. (2) Confección de aprox. 40 nuevas transparencias copias de originales inglesas. (3) Confección de varios video-cassettes en base a cintas traídas de Japón sobre fábricas de equipos (JRC. FURUNO) (4) Temas varios: Sistema Omega. Girocompás. Eco-sonda. etc.</p>
<p>(E) Otros</p>	<p>Transferir conocimientos técnicos acerca de los nuevos equipos suministrados con ayuda del experto de corto plazo. Además fabricar algunas maquetas como ayudas didácticas.</p>	<p><1> Simulador de gobierno <2> Maquetas</p>	<p>(1) Entrenamiento para el uso del simulador de gobierno (2) Sincronismo del girocompás con repetidores</p>

PLAN DE TRASPASO DE TECNOLOGIA Y TRABAJO COOPERATIVO
(A FIN DE NOVIEMBRE 1987)

Campo: EQUIPOS DE NAVEGACION Y PESCA
Asesor: TATEO KAWAKAMI
Contraparte: Prof. MARCELO LUCERO

PRINCIPIO	PUNTOS IMPORTANTES	EJECUCION	EVALUACION Y COMENTARIO
(A) Consejos para componer los programas	Tomar conocimiento del nuevo sistema de avanzada en navegacion por satélites artificiales GPS, a través de informes varios para informacion a la contraparte y su inclusion en los programas de estudio.	Se está preparando un apunte sobre las principales características del sistema GPS y el uso de sus receptores a bordo.	Se dió a la contraparte argentina un texto básico sobre el tema, con el cual se preparará un apunte final a incluir en los programas el próximo año.
(B) Preparación de los textos y manuales	En preparación los apuntes sobre equipos ultrasónicos (ampliación) y sistema GPS. Manuales del navegador satélite y del simulador de gobierno terminados.	Se dió preferencia al uso de figuras en los apuntes para facilidad de comprensión de parte de los alumnos. El texto sobre GPS fué hecho originalmente como resultado de la reunion de informes de procedencia diversa, con criterio personal.	La contraparte pudo notar una buena relación con los fabricantes de equipos electrónicos de avanzada, que brindaron la informacion necesaria sobre los últimos adelantos. Se considera que el nivel de conocimiento de la contraparte sobre el sistema GPS es muy alto en relacion con su país. En el manual del navegador satélite se incluye un glosario de términos ingleses que frecuentemente aparecen en los equipos electrónicos, indicando los significados en castellano.
(C) Preparación de los materiales audiovisuales para enseñanza	Se copiaron dispositivas y se analizaron video cassettes. Se observaron videos sobre equipos de ondas ultrasónicas, seleccionando y organizando el material sobre sonar.	Se seleccionaron y copiaron las dispositivas de interés del archivo de la contraparte japonesa. Se copiaron dispositivas del curso de radar, se necesita traducir el cassette de sus explicaciones en japonés.	Se intentaba realizar audiovisuales sobre el sistema Omega y el sonar, etc., pero como el equipo de trabajo en audiovisuales está ocupado en la realización de la película de presentación de la Escuela de Pesca, nos encontramos demorados.

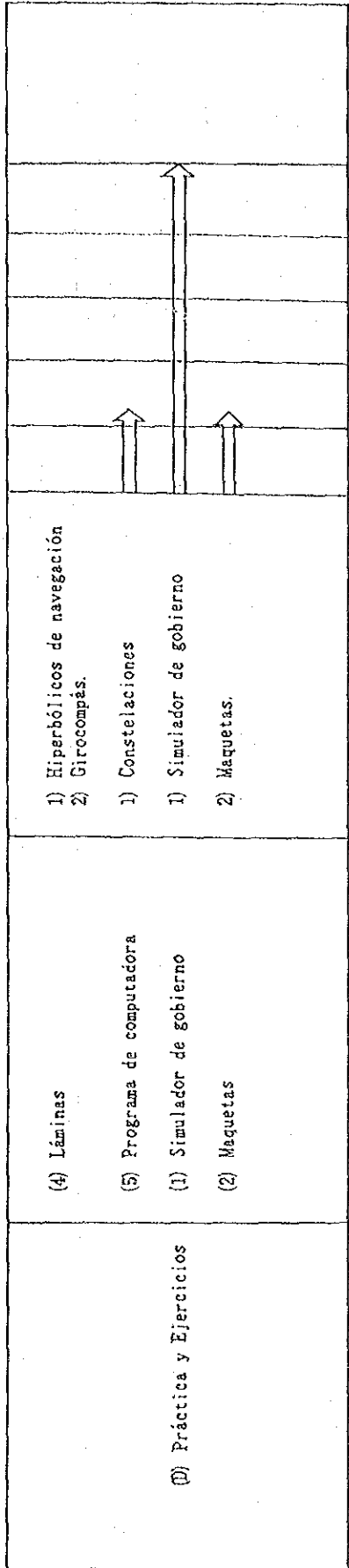
<p>(D) Práctica y Ejercicios</p>	<p>Se instaló el sistema de simulador de gobierno, realizando la instrucción de su operación a la contraparte.</p>	<p>Durante una semana el Señor MIYAKE instaló el simulador de gobierno. Se completó la instrucción a la contraparte en presencia del Señor MIYAKE.</p>	<p>Luego de la instalación del equipo la contraparte lo utilizó en demostraciones a los alumnos, quienes quedaron muy bien impresionados con el simulador.</p>
<p>(E) Otros</p>			

PLAN DE TRASPASO DE TECNOLOGIA (A FIN DE NOVIEMBRE 1987)

(Este plan es de dos años 1987/1988)

Campo: EQUIPOS DE NAVEGACION Y PESCA
Asesor: TATEO KAWAKAMI
Contraparte: Prof. MARCELO LUCERO

PRINCIPIO	ARTICULO	DETALLE	A	B	C	D	E	NOTA
(A) Consejos para componer los programas.	(1) Agregar nuevos temas de audio-visuales.		↑					
	(2) Agregar sistema de posición electrónica GPS.		↑					
(B) Preparación de los textos y manuales	(1) Textos:			↑				
	a) Equipos electrónicos para pesca.	1) Ondas ultrasónicas						
	b) Equipos electrónicos para navegación.	1) Hiperbólica Navegación (Omega) 2) Girocompás. 3) Autotimonel 4) G.P.S. Navegación.		↑	↑		↑	
	(2) Manuales:							
(C) Preparación de los materiales audiovisuales para enseñanza	a) Equipos electrónicos para navegación	1) Simulador de gobierno 2) Sistema NSS (JRC)					↑	
	(1) Dispositivos	1) Radar navegación 2) Hiperbólica navegación 3) G.P.S. navegación		↑			↑	
	(2) Transparencias	1) Ondas ultrasónicas						
	(3) Cintas de video	1) Sonar 2) Omega navegación			↑			



PLANES, SITUACIONES Y EVALUACIONES DE EJECUCION (A FIN DE MAZO DE 1987)

Campo: ARTES DE PESCA
 Asesor: ING. ZENJIRO INOMOTO
 Contraparte: PROF. DIEGO R. MAQUI

PRINCIPIO	PUNTOS IMPORTANTES	EJECUCION	EVALUACION Y COMENTARIO
(A) Consejos para componer los programas.			Como se realizaron las clases prácticas de acuerdo a lo programado con la contraparte no tuve que hacer esto al principio de este período.
(B) Preparación de los textos y manuales.	Cumplir los pendientes en el planeamiento para 1985/86	<ol style="list-style-type: none"> 1) Preparado el texto adicional de "Actividad actual de extranjeros en la pesca con red de cerco". 2) Preparado la nota explicativa de muestra de Artes de Pesca para bonito y currican para atun, bonito y lenguado. 3) Preparado los manuales de Medidor y Registrador de Resistencia. 4) Coleccionado algunos registros de sonda ecoica de cardumen de pescado de Argentina en parte. 	<p>Sobre los trabajos, he hecho los originales en japonés, después hice la traducción y corrección con la contraparte.</p> <p>Por eso, la contraparte ha dominado los textos durante el trabajo cooperativo y está utilizándolos en las clases.</p> <p>Por eso, estoy apreciando que los trabajos sirven para elevar la educación del alumno.</p>
(C) Preparación de los materiales audiovisuales para enseñanzas.	Cumplir los pendientes en el planeamiento para 1986/87.	<ol style="list-style-type: none"> 1) Preparado las diapositivas de Artes de Pesca, mano de obra de palangre de fondo para abadejo. 2) Traducido la narración de videos de "La Inspección de Recursos de Jurel con red de arrastre pelágico fuera de Chile" y "El calamar, un promisorio nuevo alimento del mar." 	<ol style="list-style-type: none"> 1) El día 5 de diciembre, embarqué en el buque de investigación "Dr. HOLMBERG" del INIDEP que efectuó pesca de prueba de palangre de fondo, y saqué fotos e hice las diapositivas. 2) Los videos se están utilizando en clase.
(D) Práctica y Ejercicios			E) traspaso de la Tecnología lo termine antes de este período

AVANCE DEL TRASPASO DE TECNOLOGIA

(a fin de marzo de 1987)

Campo: ARTES DE PESCA
 Asesor: Ing. ZENIRO INOMOTO
 Contraparte: Prof. DIEGO R. MAQUI

PRINCIPIO	ARTICULOS	DETALLE	SITUACION DE AVANCE					NOTA
			A	B	C	D	E	
1. Consejos para componer los programas	1) Dirección en componer los programas	1) Subrayando la importancia de la práctica he aconsejado dar una materia práctica paralelamente a los estudios.						Terminado
	2) Plantear las prácticas en el mar y taller.							
2. Preparación de los textos y manuales	1) Preparar los textos adicionales para los programas.	1) a) Progresos y mejoras en Artes de Pesca de Arrastre en Japón.						Terminado. Serie 009/85
		b) Manera actual de ajuste de la red de Arrastre y contramedidas para prevenir la rotura de la red cuando trabaja en zonas de fondo profundo y rocoso.						Terminado. Serie 009/85
		c) Artes de pesca para langostinos						Terminado. Serie 003/86
		d) Actividad actual de extranjeros en la pesca con red de cerco.						Terminado. Serie 012/86
		e) Artes de pesca con máquina automática para calamares.						Terminado. Serie 004/86

	<p>2) Preparar los manuales.</p>	<p>* Trabajo adicional en el plan de dos años</p> <p>a) Mutación de la capa de natación del pescado debido a la insolación y al incremento de arrastreros en la cercanía.</p> <p>b) Resultado de las pruebas de los modelos de red de arrastre empleados por el Buque de Instrucción "LUISITO" de la Escuela Nacional de Pesca.</p> <p>c) Metodología para la elaboración de los datos obtenidos en los ensayos con modelos de Arrastre por intermedio de la computadora OKI IF 800 de la Escuela Nacional de Pesca.</p> <p>2) a) Medidor de Tensión (Tipo PT-2)</p> <p>b) Máquina automática para calamares (Tipo MD-3)</p> <p>c) Canal de circulación de agua (Tipo V2-1A)</p> <p>d) Dinamómetro para ensayos de tracción (Tipo OS-500)</p> <p>* Trabajo adicional en el plan de dos años</p> <p>a) Correntómetro digital (Tipo TX101D)</p> <p>b) Medidor de distorsión inestable (Tipo DPM 600)</p>	<p>Terminado. Serie 002/86</p> <p>Terminado. Serie 007/86</p> <p>Terminado. Serie 008/86</p> <p>Terminado. Serie 004/85</p> <p>Terminado. Serie 005/86</p> <p>Terminado. Serie 002/85</p> <p>Terminado. Serie 003/85</p> <p>Terminado. Serie 006/86</p> <p>Terminado. Serie 011/86</p>	
--	----------------------------------	--	--	--

	<p>3) Preparar las ilustraciones, tablas de pared y fotografías para explicar</p>	<p>c) Registrador de resistencia (Tipo SB-6211)</p> <p>3) a) Sobre relinga inferior de red de arrastre en zona de fondo rocoso</p> <p>b) Sobre las redes de arrastre</p> <p>c) Artes de pesca para bonito y caballa</p> <p>d) Artes de pesca para calamar con máquina automática</p> <p>e) Artes de pesca curricam para atún, bonito y lenguado.</p> <p>f) Artes de pesca con nasa para langostino y cangrejo.</p> <p>g) Artes de deriva o trasmallo para salmón, calamares, sardina, besugo y cangrejo.</p>	<p>Terminado Serie 011/89</p> <p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p> <p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p> <p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p> <p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p> <p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p> <p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p> <p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p> <p>Cinta cassette de registros color de sonda ecoica en zona de pesca de merluza y registros de sonda de red en zona de pesca de calamar y registro de sonda ecoica en zona de pesca de langostino.</p>
<p>4) Preparar los modelos y cintas cassettes de registros de sonda ecoica de cardumen de pesca</p>	<p>4) a) Preparados los de Japón</p> <p>b) Preparados los de Argentina en parte.</p>	<p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p>	<p>Terminado. Se está exhibiendo en taller.</p>

<p>3) Preparar los datos para enseñanza audiovisual</p>	<p>1) Preparar los negativos para transparencias.</p> <p>2) Preparar los negativos para dispositivas.</p> <p>3) Preparar las cintas cassette de vídeo.</p>	<p>1) Planos de red de arrastre varios tipos japoneses y los de red de arrastre para langostinos mundial.</p> <p>2) Casco e instalación de barcos. fotos de las operaciones.</p> <p>3) Están preparados para usar en las clases. cintas cassettes de Japón.</p>	<p>Terminado.</p>
<p>4. Práctica y ejercicios</p>	<p>1) Práctica en el taller.</p> <p>2) Práctica a bordo de "LUISITO" en el mar.</p>	<p>1) Aconsejar para experimentos de la red de arrastre en tanque de agua y en el laboratorio de hilos y cabos por Dinamómetro para ensayos de tracción.</p> <p>2) a) Aconsejar para práctica de operación de pesca de arrastre. b) Aconsejar para práctica de operaciones de otras. fuera de las de arrastre.</p>	<p>Terminado.</p> <p>Terminado.</p> <p>Terminado.</p> <p>Terminado.</p> <p>Aconsejé sobre las de fondo y media agua a bordo. No hay prácticas de la bolilla en clase.</p>

PLAN DE TRASPASO DE TECNOLOGIA 1987-1988

ARTES DE PESCA

PRINCIPIO	OBJETO O LINEA DE CONDUCTA	ARTICULO Y DETALLE	X O T A
<p>(1) Consejos para componer los programas</p>	<p>Traspaso de tecnología de las artes de pesca que no están difundidas en Argentina pero que tienen un futuro promisorio.</p>	<p>Siguiendo los programas presentados se han conformado con la situación pesquera real de la Argentina. Mientras tanto, incluir o reforzar las materias de pesca que son prometedoras, como por ejemplo la de calamar, con máquina automática, de acuerdo con los movimientos de las empresas pesqueras.</p>	<p>(1) Ahora, se está explotando la zona de pesca de calamar contigua al Mar Argentino, pasando a ser la más grande y abundante del mundo. Mas de 150 buques extranjeros con máquina automática para calamar están pesando en esa zona. Aunque muy tarde, algunas empresas nacionales están transformando sus arrastreros o atuneros en buques calamareros con máquina automática.</p> <p>(2) El resultado obtenido de la pesca con palangre de fondo tipo japonés investigado por el buque Dr. Holmberg de INIPEP en la zona del declive de la plataforma continental del Mar Argentino, se ha mejorado gradualmente.</p>
<p>(2) Preparación de los textos y materiales.</p>	<p>(1) Preparación de los textos</p>	<p>(1) Enriquecer el texto actual de Artes de Pesca con máquina automática para calamares.</p> <p>(2) Preparar el texto adicional de Artes de Pesca de palangre del fondo.</p> <p>(3) Enriquecer el material de enseñanza de palangre de media agua y de nasa para besugos, que son los productos exportables.</p> <p>(2) Preparación de los manuales.</p> <p>(1) Terminar el manual del Medidor de Profundidad (Tipo Graficador).</p> <p>(2) Terminar el Manual del Carrute Eléctrico.</p>	<p>(3) (1) Vamos a adicionar a los textos (1) y (2), los resultados del entrenamiento sobre estos Artes de Pesca del Profesor Diego Maqui en el Norte del Japón en año 1987.</p>

<p>(C) Preparación de los materiales audiovisuales para enseñanza</p>	<p>Las máquinas especiales para montar y doblar los videos deben instalarse hasta Junio de 1987. Además el experto de preparación de materiales audiovisuales para enseñanza permanecerá durante 4 meses Entonces tenemos previsto hacer este trabajo preferentemente teniendo en cuenta las prioridades.</p>	<p>(C) (1) Preparación de los videos para enseñanza. 1) Montar y doblar de 25 videos sobre pesca del Japón a 5 videos sobre Artes de Pesca como muestra abajo: 1- Artes de Pesca de la red de arrastre de fondo. 2- Artes de Pesca de la red de arrastre de media agua 3- Artes de Pesca con máquina automática para calamares. 4- Artes de Pesca de la red de cerco. 5- Artes de Pesca de Palangre de fondo y media agua. 6- Artes de Pesca de otras.</p>	<p>(1) Los videos del Japón fueron hechos por el Centro de Investigación de Recursos Marítimos del Japón (JURMICO), o empresas pesqueras e construcciones navieras para japoneses en general y pescadores extranjeros. Por eso los videos tienen muchas partes de propaganda de esas empresas que no tienen interés alguno para los alumnos de esta escuela.</p>
<p>(D) Practica y Ejercicios</p>	<p>Perfeccionar las prácticas de operación de pesca con el LUISITO</p>	<p>(2) 2) Rodar en video las operaciones de pesca de anchoíta del LUISITO con la red de arrastre de media agua y por una lancha con red de lancha. (2) Preparación de las diapositivas adicionales sobre Artes de Pesca y arreglo junto a las anteriores.</p>	
		<p>(C) (1) Orientación de la práctica de operación efectiva de pesca de la red de arrastre de media agua para anchoíta. (2) Orientación de las prácticas de operación de otra pesca fuera de la de arrastre.</p>	

PLANES, SITUACIONES Y EVALUACIONES DE EJECUCION (A FIN DE NOVIEMBRE 1987)

Campo: ARTES DE PESCA
 Asesor: ING ZENJIRO INOMOTO
 Contraparte: PROF. DIEGO R. MAQUI

PRINCIPIO	PUNTOS IMPORTANTES	EJECUCION	EVALUACION Y COMENTARIO
(A) Consejos para componer los programas	Básicamente consiste en la preparación de programas como los que se han hecho anteriormente, conformes al desarrollo de la industria pesquera argentina y a las demandas del futuro.	Enviar al Profesor contraparte al Japón para la adquisición de un mayor conocimiento para su especialización en la pesca de calamares y en la pesca de langre de fondo, dos temas que hoy concentran la atención en el mundo de la pesca.	Con respecto a la pesca de calamares el contraparte ha tenido participación en la preparación del texto en español, y ha adquirido mayores conocimientos y técnicas durante el entrenamiento técnico en Japón y las experiencias obtenidas en los buques japoneses. Además ha ganado la confianza en sí mismo en lo que respecta a esta materia. Esto contribuirá en el desarrollo de la industria pesquera argentina en el futuro.
(B) Preparación de los textos y manuales	Preparación del segundo texto de la pesca de calamar con máquina automática.	El primer texto contenía la presentación de Artes de Pesca e instalación del buque para calamar, ahora me limitaré a señalar algunos aspectos o detalles de las operaciones que considero útiles e importantes, que conviene extremar los cuidados de los aparejos, los métodos de pesca y la operación de captura de calamares	Los alumnos de la Escuela se están familiarizando con la pesca de calamares ya que durante las vacaciones de invierno el alumno que sigue el curso de PPL ha realizado prácticas en un buque que calamarero coreano. Además en estos momentos existen algunos arrastreros de altura con expertos japoneses a bordo que en las épocas de calamar instalan máquina automática y se dedican a la pesca de los mismos durante la noche.

<p>(C) Preparación de los materiales audiovisuales para enseñanza</p>	<p>(1) De varios videos promocionales sobre la pesca producidos para el público japonés, seleccionar y editar las partes que puedan servir como materiales didácticos</p>	<p>(1) Referente a los materiales audiovisuales sobre la pesca de arrastre de media agua y la pesca de calamares hemos terminado con los guiones y la narración con sus correspondientes traducciones al español. Debido a que están en uso los equipos de edición por el video promocional de la Escuela, comenzarán la edición cuando finalicen con la tarea mencionada anteriormente.</p> <p>(2) Para la preparación de materiales audiovisuales sobre la pesca de anchoitas, se han filmado los aspectos de las operaciones de lanchas con redes de lampara y las maniobras con redes de arrastre pelágica del LUISITO y el funcionamiento de la sonda ecoica a lo largo de tres días. Falta almacenamiento y el tratamiento posterior de la captura.</p>	<p>(Comentario)</p> <p>(1) Ante la solicitud de parte de la Escuela de preparar un video promocional de la misma, hemos colaborado, junto con el contraparte en la filmación de las clases y prácticas de nuestra materia postergando la tarea de edición de nuestro video.</p> <p>(2) El cumplimiento del video de la pesca de anchoitas ha sido postergado para el próximo año debido a la prioridad que se ha dado al video promocional de la Escuela, y a la realización de un Seminario organizado por JICA sobre el Desarrollo de la Pesca Costera.</p>
<p>(D) Práctica y Ejercicios</p>	<p>Perfeccionar las prácticas de operación de pesca con el LUISITO.</p>	<p>Indicaciones sobre reparación de redes y sobre equilibrios entre la flotación y lastre de nuevas redes de arrastre de media agua.</p>	<p>(Comentario)</p> <p>En cuanto a la pesca de anchoitas del presente año, desde mediados de setiembre hasta mediados de octubre el caladero se encontraba en las proximidades y se ha obtenido muy buenos resultados. El LUISITO en la campaña del 2 de octubre, no pudo levantar la red debido a la gran cantidad de anchoitas ocasionando algunos daños en las redes. Luego de esas fechas la anchoita se ha alejado de las costas, ya fuera de la época de pesca para red de arrastre pelágica (también por razones antes mencionadas como la realización del Seminario) no se ha podido dar instrucciones efectivas.</p>

AVANCE DEL TRASPASO DE TECNOLOGIA (A FIN DE NOVIEMBRE 1987)

(Este plan es de dos años 1987/88)

Campo: ARTES DE PESCA
 Asesor: ING. ZENIRO INOMOTO
 Contraparte: PROF. DIEGO R. MAQUI

PRINCIPIO	ARTICULO	DETALLE	SITUACION DE AVANCE					NOTA
			A	B	C	D	E	
(A) Consejos para componer los programas		<p>Siguiendo los programas se han conformado con la situación pesquera real de la Argentina.</p> <p>Mientras tanto, incluir o reforzar las materias de pesca que son prometedoras, como por ejemplo la de calamar con máquina automática, de acuerdo con los movimientos de las empresas pesqueras.</p>						
(B) Preparación de los textos y manuales	(1) Preparación de los textos	<ol style="list-style-type: none"> 1) Enriquecer el texto actual de Artes de Pesca con máquina automática para calamares. 2) Preparar el texto adicional de Artes de Pesca de palangre de fondo. 3) Enriquecer el material de enseñanza de palangre de media agua y de nasa para besugos, que son los productos exportables. 						
	(2) Preparación de los manuales	<ol style="list-style-type: none"> 1) Terminar el manual del Medidor de Profundidad (Tipo Graficador). 2) Terminar el Manual del Carrete Eléctrico 						

<p>(C) Preparación de los materiales audiovisuales</p>	<p>(1) Preparación de los videos</p>	<p>1) Montar y doblar de 25 videos sobre pesca del Japon a 5 videos sobre Artes de Pesca como se enumera abajo: 1- Artes de Pesca de la Red de Arrastre de Fondo. 2- Artes de Pesca de la Red de Arrastre de Media Agua. 3- Artes de Pesca con Máquina Automática Para Calamares. 4- Artes de Pesca de la Red de Cerco. 5- Artes de Pesca de Palangre de Fondo y Media Agua. 6- Otras Artes de Pesca.</p> <p>2) Rodar en video las operaciones de pesca de anchoíta del LUISITO con la red de arrastre de media agua y por una lancha con red de lampara.</p>		
<p>(D) Práctica y Ejercicios</p>	<p>(2) Preparación de las diapositivas adicionales sobre Artes de Pesca y arreglo junto a las anteriores.</p>	<p>1) Orientación de la práctica de operación efectiva de pesca de la red de arrastre de media agua para anchoíta.</p> <p>2) Orientación de las prácticas de operación de otra pesca fuera de la de arrastre.</p>		

JICA

LIB